

世界遺産を目指す江戸城再生

2025年4月6日
第20号

特別記念号 永久保存版



2024年12月1日、当財団の創設者である会長小竹直隆さんがご逝去されました。
ここに哀悼の意を表し生前のご貢献に謹んで敬意と感謝を申し上げます。
ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

亦、故人が生前にみなさまから戴いたご厚情に篤く感謝し御礼を申し上げます。
本号では2025年2月20日に執り行われた「小竹直隆さんを偲び捧ぐ会」の
ご報告をさせて戴きます。

－ 目次 －

小竹直隆さんを偲び捧ぐ特別記念号に寄せて	1
お言葉 船山 龍二 様 (株) JTB 代表取締役元会長、元社長	2,3
お言葉 田川 博己 様 (株) JTB 相談役 代表取締役 元会長、元社長	5
お言葉 岩田 洋和 様 (一財) 江戸東京歴史文化ルネッサンス・正会員	6,7
世界遺産を目指す江戸城再生 その源流 2003 年 立教大学の最終講義	8,9
特別寄稿 関口 宏聡様 特定非営利活動法人セイエン 代表理事	10,11
遺族ご挨拶 小竹 久江様 (一財) 江戸東京歴史文化ルネッサンス 専務理事	12,13
1997 年 東京観光財団 旧東京コンベンション・ビジターズ ビューロー 初代専務理事	14
2004 年 六本木ロータリークラブ初代会長	15
－ 江戸東京歴史文化ルネッサンス 2020 年 今日の意義の検証 －	16
江戸城再建 市民運動 - これまでの歩み -	17
2003 年 世界遺産江戸城再生を目指す もう一つの源流 竹田軍育さんの記事	18
2004 年 12 月 11 日 任意団体 江戸城再建を目指す会 設立総会	19
2005 年 江戸城再建を目指す会 第 1 回総会	20
2006 年 9 月 世界旅行博 出展	21
2011 年 認定 NPO 法人の「認定資格」を取得 2013 年 認定 NPO 法人 江戸城天守を再建する会	22,23
2017 年 7 月 26 日 一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス 設立	25
2017 年 「構想の転回」世界遺産を目指す江戸城再生へ向けて	26,27
2017 年 11 月 世界的評価に資する本丸御殿など江戸城全体整備構想への転回 VISION 報告会	28
2018 年 江戸城の総構えを俯瞰して初の本格的学術調査、いよいよ始まる	29
2020 年 11 月 財団設立 3 周年記念行事 開催 日本イコモス国内委員会と共催 近未来の世界遺産を目指し江戸城全体整備構想の策定並びに 歴史文化まちづくりを目指して 2021 年 3 月 ボランティアのみなさまと役員の座談会	30,31
2021 年 12 月 近未来の世界遺産を目指し「VISION2032」提言活動スタート	32
2024 年 4 月 遂に動き出す ー歴史文化まちづくりに必須のー ①世界遺産登録を目指す ②文化財保護法「大綱」の策定始まる	33
2024 年 近未来の世界遺産を目指す江戸東京歴史文化まちづくり展開構想 一言メッセージは個人情報保護の観点から掲載を割愛しました	34
弔電、ご参列への御礼	47
謝 辞	48
編集後記	49

「小竹直隆さんを偲び捧ぐ・特別記念号」に寄せて

2024年12月1日、一般財団法人 江戸東京歴史文化ネッサンスの代表理事 会長である小竹直隆さんがご逝去されました。

小竹直隆さんのご逝去に対し哀悼の意を表しますと共に生前のご貢献に対し、謹んで敬意と感謝を申し上げます。

2004年に市民団体江戸城再建目指す会（後のNPO法人）を創立し以来、様々な困難を乗り越えて今日に至る迄の20年余り生涯・ライフワークとして「世界遺産を目指す江戸城再生」へと着実に成果をあげて運動を牽引して参りました。

この間、会員、市民、関係者多くの皆様から戴きましたご厚情に深く感謝し御礼を申し上げます。

2025年2月20日に執り行われた「小竹直隆さんを偲び捧ぐ会」にお寄せ頂いたお言葉と共にこれまで歩んで来られた軌跡を辿ることを通して、みなさまと共に小竹直隆さんを偲び、残された私達の心・想いをここに捧げたいと存じます。

なお、本号は、故人の遺志「世界遺産を目指す江戸城再生」を継承し近未来に向けた出発点の記録としても残すものであります。

2025年（令和7年4月好日）

一般財団法人 江戸東京歴史文化ネッサンス

小竹直隆さんを偲び捧ぐ会

令和七年二月二十日 木曜日

高野山真言宗 総本山金剛峯寺 東京別院
会館（献花） 十一時半開会
表書院（献杯） 十二時半開場

次 第

一、お別れの会 開式の辞 川野恵可（一財・江戸東京歴史文化ネッサンス理事）

一、黙祷

一、お言葉 松山龍二（財）JTB代表取締役元会長、元社長）

岩田洋和（一財・江戸東京歴史文化ネッサンス・正会員）

一、遺族ご挨拶 小竹久江（一財・江戸東京歴史文化ネッサンス専務理事）

一、献花

一、偲ぶ会 献杯 荒井正吾（前奈良県知事）

一、ご会食

一、お言葉 奥典之（NPO法人日本ライフサポート協会理事長 元東京都生活文化局長）

斉藤明子（東京六本木ロータリークラブ）

辻のぞみ（元TCVB・元名古屋短期大学教授）

一、謝辞 浅田豊久（一財・江戸東京歴史文化ネッサンス理事長）

一、閉会の辞 川野恵可（一財・江戸東京歴史文化ネッサンス理事）

お 言 葉

船 山 龍 二 様

(株) JTB 代表取締役元会長、元社長

— 小竹直隆さんを偲び捧ぐ会 感謝の辞 —



いま穏やかなお顔の写真を拝見して在りし日のお姿を偲びつつ、人生のほとんどを日本の観光および観光業の発展に尽力されましたことに心から敬意を表し感謝申し上げます。

長い間本当にお疲れ様でした。

またその間、われわれ後輩を叱咤激励しご指導いただいたことにも感謝申し上げます。有難うございました。

あなたは戦後間もない昭和32年に財団法人日本交通公社に入社され現場経験を済ませて直ぐ外人旅行部（インバウンドを扱う部門）に配属されました。ほとんどの欧米人が船で優雅に訪れる時代ですから、英文では Tours Cruises Dept. と称していました。一ドル 360 円、実勢レート 400 円の時代です。

昭和30年代は戦後復興から発展を遂げる時期でありました。

所得倍増計画に続いて昭和39年には東京オリンピック開催、日本人の海外旅行自由化、東海道新幹線開通など経済発展とともに観光が漸く発展の緒に就いた頃です。

私は昭和37年にJTBに入社し、たまたま配属が外人旅行部でしたので小竹先輩とその職場をご一緒しました。爾来、ほぼ同じ道を歩んできましたので実に六十四年の長きにわたるお付き合いです。

インバウンド業務はわが社の祖業ですので優秀な人材が集まっておりまして。その中でも小竹さんは既に若手中堅社員として図抜けた存在でした。

その印象は、果敢な仕事ぶりと基礎的な学力—インテリジェンスをベースにしたご見識ぶり—と論客ぶりは多を圧倒しておりました。

そして仲間内でも人望があり、独身の会で「バチェラースクラブ」という会がありましたが、その会長にまつりあげられておりました。女性にももてましたね。その風貌からフリオ・イグレシアスとかマッケンローといわれていました。

若くして将来を嘱望され、すぐニューヨーク勤務の話がありましたが、この人材を見逃さず労働組合が動きました。社員が全て組合員となるユニオンショップ制ですから本人の意思とは別に人事異動のように強引に本部役員に引っ張られました。これは一つの人生の分岐点で、回り道したようですが長い目で見ればかえって一回りも二回りの大きくなされたのではないかと思います。

四十歳代前半から労働組合の中央執行委員長に就任されました。

昭和45年の大阪万博を過ぎ海外旅行アウトバウンドが飛躍的に伸びインバウンドを逆転しました。同時に国内旅行も爆発的に伸び、社の業容は拡大の一途でした。社は財団法人から株式会社に変更し社員＝組合員も一万人を越す大組織となりました。そのような背景から労働環境も幾多の問題を抱えました。そこで単なる賃上げなどとどまらず、経営側に対してクリエイティブな問題を提起し時にはストライキも辞さず実現を図りました。当時、私も労組を共にしましたが、正直、辛い体験もしましたが、顧みれば充実感に溢れた青春時代でした。

時を経て、満を持して本来の職場復帰後はアメリカ勤務を実現した後、主に国際部門営業を中心に八面六臂の活躍をされました。首都圏営業本部副本部長、取締役関西営業本部長、人事・広報担当常務取締役、代表取締役専務、JTBアメリカス会長など中枢の要職を務め、社業はもとより業界の発展に大きく寄与されました。

その間の仕事ぶりはまさに疾風怒濤、時にはまわりとハレーションがあっても多少のことでは妥協せず信念を貫くというスタイルでした。更にその特徴は難問であればあるほど燃えるということです。決して逃げない。例えば、オー

ロラ問題で公取との論争、国鉄民営分割後の社の経営改革運動、JR 東日本との経営形態を巡る論争などで存分に特性が発揮されました。このご性格は生涯貫かれたのではないかと思います。

JTB 退任後、TCVB 専務理事として「YES TOKYO キャンペーン」や「東京マラソン」など手掛けたあと46年間のビジネス生活に幕を閉じました。それを去るにあたって私がいただいた手紙には「“平坦な道を、大過なく” 過ごしてきたとはいいがたく“大過と波乱に満ちた人生” だった」とありました。

私は昔のある時の言葉を思い出しました。

「船山君、僕の直隆の『**隆**』と言う字の
つくりの部は“生”でなく“一生”の

隆』」なのだ。この字の方が好きだ」

と言ったことがありました。今、ご位牌を拝見して確かに一生と確認し納得しました。あの言葉を振り返りまさに直隆さんは“一生かけて直球勝負の方”だと思いました。

さて、インバウンドは長い間低迷していましたが、二十一世紀に入り国の観光立国宣言を機に官・産・学・地域が一致して取り組み2014年には再びアウトバンドを凌ぎ、その勢いのまま今日の隆盛に至っております。しかし問題も山積しています。

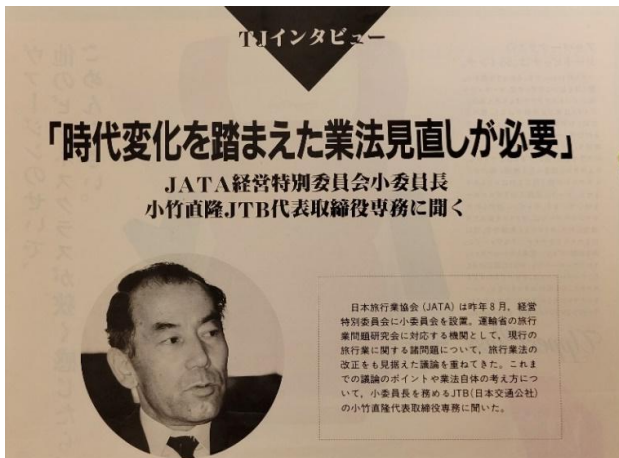
第二の人生でインバウンド振興をライフワークにされた小竹さんがその見識と経歴からみて「江戸城」に取り組まれたのは必然と思います。しかも難問です。まだ道半ばですが世界遺産登録の話も出てきました。きっと続く皆さんがご意志を実現されるものと確信しています。小竹さん、Take it easy もう気張らなくていいですよ。

どうか安らかに眠り下さい。最後にもう一度、長い間本当にご苦労様でした。そして有難うございました。

令和七年二月二十日



ひらめき・信念と情熱 そして、行動の人



旅行業の社会的使命を問う



オーロラ問題で公取と論争



中央執行委員長 (39歳)



国際運輸労連スイスにて 世界の仲間と一緒に闘おう



充実感に溢れた青春時代 (30代)

お 言 葉

岩田 洋和 様

一財)江戸東京歴史文化ルネッサンス 正会員

— おわかれと感謝の言葉 —

本日、ここにお集まりの皆様とともに、小竹直隆先生を偲び、お別れの言葉を申し上げる機会をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。

先生がご逝去されたと同ったとき、私は、すぐにはその現実を受け入れることができませんでした。最期の日、ご家族に囲まれ「ハッピーライフ、サンキュー」と繰り返されていたと奥様の久江さんから伺いました。実に先生らしいと思いました。

本当は、先生にお会いし、直接お礼を伝えなかったという悲しみに胸がいっぱいですが、今日は感謝の気持ちを込めて、先生との思い出を皆様と分かち合いたいと思います。

私が先生に初めてお会いしたのは、今から24年前、立教大学観光学部在学時でした。講師としていらしていた先生の講義を受けたのがはじまりです。

私は決してまじめな学生ではなかったのですが、講義の内容を細かくは覚えていないのですが、ご自身の実経験をもとに、「学ぶとは、考えるとは、働くとは」どういうことかを教えてくださいのような講義だったと思います。

最後の講義で先生は「長年胸で温めていたことをはじめて人前で披露する」として「江戸城再建」の夢を熱く目を輝かせながら語られました。今日ここに参列しております、現・財団理事で、同期の村井庸平君とともに大きな衝撃を受け、行動力のある彼に私はついていく形で、先生とのお食事会が実現し、さらに詳しい話を伺うことになり、学生時代から「江戸城再建を目指す活動」に関わらせていただくことになりました。

当時、先生は72歳でいらっしゃったかと思います。お話しの内容はもちろんですが「こんな熱い志をもった大人がいたんだ!」とそちらのほうにとにかく強い衝撃を受けたのを覚えております。

その後、ろくに就職活動もしていなかった私は、先生のご紹介で学生時代から参加していた、吉祥寺のまちづくり関係のNPOに拾っていただき、その5年後に、当時まだNPO法人だった「江戸城再建を目指す会」の事務局で、一緒に働かせていただくことになりました。「事務局」といっても、他に事務員はおりません。直隆先生や、久江さんとともに、お二人のご自宅兼事務所で、泊まりこそしませんでした、半分住み込みのような形でお世話になっておりました。

先生は、仕事には厳しく、決して妥協をしませんでした。当時、認定NPOを目指して国税局とのやりとりが続いたのですが、気力体力が最も充実しているはずの20代の私は、70代も半ばを越えた先生についていくのに必死だったことを覚えています。

一方で、先生は、仕事を離れると、とても人間味があってチャームな方でした。甘いものが好きで、スポーツ観戦もよく楽しんでおられました。当時、お昼ご飯は久江さんと3人でよく外食をしていましたが、ある日、先生が自宅で「これがうまいんだよ」とお昼に温かい素麺を作ってくださいました。あのときの笑顔を今でも鮮明に覚えています。普段着の先生は気取らず、ありのままの姿を見せてくださっていました。

今から11年前の5月、現在勤めている会社で失敗をし、悩んでいた私に先生が3枚にも渡って書いてくださったお手紙を久しぶりに見返しました。先生は、次のように書かれていました。(私信なので怒られてしまうかもしれませんが、一部、原文のまま紹介させていただきます。)
『「夢を持つ」それ自体は、素晴らしいことだ。しかし、夢は、単なる夢で終わらせてはならない。その夢を実現させるべく、命がけで努力する、それこそが、まさに自分との“戦い”であり、「生きる」という証ではないのか。その、自分との戦いが出来なければ、それは単なる夢・幻であり、人として生きた証をつくることにもならないのではないか。』—いつものように右手を振りかざしながらお話しされている先生の姿が浮かびます。

まさに、先生が「命がけで努力」をし、取り組んでこられた「江戸城再建」の「夢」がいよいよ具体的に動き出しつつあります。先生は、再建された江戸城をその目で見ることこそありませんでしたが、これまでの活動が実を結んで政府や東京都が、江戸歴史文化まちづくりに必須であり難関な「世界遺産登録」を目指して動き出し、「文化財保護法・大綱」が策定されるなどの明るい兆しが見えてきた最中に逝かれてしまいました。夢の実現に向けた大きな第一歩を立派に見届けられ、後世に活動を継承し、その生涯をかけて、背中で「生きる」証を示してくださいました。

「日々是新だよ」先生がよくおっしゃっていた言葉です。先生の多くの教えにも関わらず、私は、相変わらず余裕もなく、正直に申し上げて、財団の活動にも以前ほどお役に立てていない状況です。先生はきっとあちらで「岩田くんしっかりしろよ」とおっしゃっていることと思います。

ですが、先生が残してくださった言葉や姿勢は、これからも、私の中で生きています。そして、残された私たちの「世界遺産を目指す江戸城再生」の活動・使命を支え続けてくださると思います。

小竹先生、本当にお世話になりました。やすらかにやすみください。

「どうか、天国から、久江さんを見守ってください。」

ありがとうございました。

令和七年二月二十日



世界遺産を目指す江戸城再生 その源流

2003 年 立教大学の最終講義



立教大学 観光学部 特別講師として最終講義で「江戸城再建」を語る

村井 庸平（立教大学 受講生）

2003 年、コンベンション産業論・最終講義の冒頭で小竹先生は「今日は夢を語ろう」と仰りました。

講義では、東京コンベンションビジターズビューローで初代専務理事の仕事を振り返り、『世界に東京を売り込むという仕事をしてきた。国際会議や展示会を開催する主催者に向けて、安全で安心、快適な東京をアピールするも、「東京？いったい何の楽しみがあるのだ？」と言われ、連戦連敗だった。東京に魅力はないのか。ジャパン・パッシングは加速していくのか。日本はどこへいくのか』と思われたそうです。

その後、話は展開していきます。

『世界に目を転じると、ロンドン・パリ・ニューヨークなどの国際都市には、その国の理念を表す美しいモニュメントがある。では東京のそれは何なのか？』講義室を歩き回りながら、学生に聞いて回ります。「東京タワー、雷門、富士山、東京駅、新東京タワー（スカイツリー）、」いくつか意見が出たものの、決め手に欠け、出尽くしてしまいました。

講義室が静かになったあと、小竹先生は語り始めました。

「東京に魅力がないのではない。あったのだ。東京にはかつて、江戸時代という平和で文化が花開いた時代があった。その象徴であった江戸城再建が僕は必要だと思う」
そのあと、江戸城、東京、日本、そして世界の未来について熱く述べられました。

講義の最後に学生にアンケートが配られました。「江戸城再建をどう思うか？実現できると思うか？」
回答結果は、大半の日本の学生が意義はあるものの実現は難しいのではないかと答えたのに対し、留学生は、意義がある！きっと実現できる！との回答が多数だったそうです。

小竹先生から、この回答が大変うれしかったと、後日何度も伺いました。



立教生が有志集会を企画

私を含め、最終講義に胸を打たれた学生が「日本の未来は観光によって切り拓ける可能性がある。もっと多くの観光学部生にこの話を聞いて欲しい。もっと話を聞きたい」と有志集会を企画しました。告知は留学生にも聞いて欲しいと英語も併記。テーマは「日本を再生しよう」「Yes, EDOJO」



2003年6月10日 学生有志集会

「観光立国」、そして「日本再生」を
— 敢えていま、江戸城再建をアピールする —



会場は超満員で 200 名以上の学生が集まった



有志集会を企画した学生
この中の学生のうち二人（村井・岩田）はこのあと
20 年以上にわたり江戸城再建運動を支え続けた。

特 別 寄 稿

特定非営利活動法人セイエン
代表理事 関口 宏聡 様

小竹直隆さんを偲んで



関口様は昨年12月6日の葬儀と今年2月20日の偲ぶ会にご多用のところご参列賜りましたが、時間の都合上お言葉を戴くことができませんでしたので、後日本稿をお寄せ戴きました。

小竹さんは、NPO・市民活動として前人未到の壮大な構想・ミッション（目的）に向かい、数々の試練と戦いながら果敢に挑戦しつづけた尊敬するチャレンジャーでした。

私が初めてお会いしたのは、確か2009年前後、当時取り組んでいたNPO法（特定非営利活動促進法）改正や寄付税制拡充を求める集会だったと記憶しています。NPOや市民活動では、貧困撲滅や原生自然保護、平和構築など困難なミッションの達成に向けて、日夜に取り組んでいる団体は少なくありません。当時は私たちも制度創設以来の抜本改正実現が瀬戸際で日々奔走していた時期です。その集会で力強いご発言をいただき、御礼も兼ねて名刺交換をした際に「江戸城再建」を目指していると伺って、この方も市民活動魂を持って困難なミッションに臨む同志だと感じたのを覚えています。

その後、小竹さんはじめ多くの方々のご協力もあって、2011年にNPO法や寄付税制の抜本改正を実現できましたが、小竹さんの活動はここから数々の断崖絶壁、試練に直面していくことになります。NPOとして、多くの市民の参加・協力・理解を得ながら、粘り強く政策提言（アドボカシー）活動や普及啓発を行っていく姿は、まさに市民活動の王道でありましたが、ミッションの頂はあまりに高く、小竹さんや仲間の皆さんがどんなに一生懸命に取り組まれても、例えば暴風雪や急峻な崖ともいえる様々な課題・問題が前進を阻みます。こうした課題への対応に際して、いつからか小竹さんからご相談をいただくようになりました。今から思えば不躰な意見も申し上げていた気もしますが、孫ほど年の離れた若造である私の助言も真摯にお聞きいただきました。厳しい課題への対処ではありましたが、闊達な議論をしていたのを懐かしく思い出します。

江戸城再建に留まらない、歴史的伝統と文化的価値を活かす「まちづくり」を目指す一般財団法人江戸東京歴史文化ルネッサンスの設立では、過大な評価でありましたが私も顧問を務めさせていただきました。

全世界を襲った暗黒のコロナ禍をなんとか乗り切り、これまでの活動が実を結んで政府や東京都が、江戸歴史文化まちづくりに必須な「世界遺産登録」を目指して動き出し、文化財保存活用大綱が策定されるなどの明るい兆しが見えてきた最中に、小竹さんは逝ってしまわれました。

私の心には出会ってからの15年の間、不可能と思えるミッションに対して、決して諦めることなくNPO・市民活動として真正面からチャレンジし続けた小竹さんの姿が焼き付いています。

小竹さん、これまでの長年にわたるご活動、本当にお疲れ様でした。改めまして、ご尽力に心からの敬意と感謝を申し上げるとともに、その精神・遺志を胸に刻み、私も日々の活動に取り組み、次世代へも継承していきます。どうか安らかにお休みください。

*ご参考

特定非営利活動法人 セイエンは、前進の「シーズ・市民活動を支える制度を創る会」から事業を継承し現在に至っています。

1995年阪神大震災時に設立以来、超党派へのロビー活動等により、政策提言を進め日本の市民活動を牽引してきた法人です。

NPO法の制定や寄付税制等を始めとしてコロナ禍では、ロビー活動により助成金等の対象拡充においても多くの市民団体の救済を進めてきました。

現在も政策提言活動及びこれらの制度普及活動やNPOなどに関する活動支援事業等を通じて、豊かな市民社会の実現に寄与することを目的としています。

NPOの範囲は幅広く統一した定義はありませんが、一般的には下記の通りです。

最狭義：NPO法人

狭義：ボランティア団体、市民団体

広義：社団・財団法人等法律で定められた法人

最広義：生協、労働組合等

遺族ご挨拶

小竹久江様

一財)江戸東京歴史文化ルネッサンス
専務理事 内田久江(通称使用)

この度はご多用の中「故小竹直隆さんを偲び捧ぐ会」にご参列を戴き篤く御礼申し上げます。

亦、生前のご厚情に心より感謝申し上げます。
本日の偲ぶ会開催にあたり多くのボランティア皆様のご尽力がありました。
東京観光財団、六本木ロータリークラブ、JT B、高野山東京別院そして市民団体の皆様、誠に有難うございます。この場をお借りし御礼申し上げます。

覚悟はしていたものの突然のお別れになってしまいました。
最期の時は私と長女二人で両手を握りしめ「有難う、直隆さん、お父さん」を繰り返しお伝えしました。穏やかで静かな大往生でございました。

二年前、膵臓癌と診断されました。しかし、痛みもなく食欲も旺盛、これまで通りの生活や活動により生活の質を落とすたくない漢方の治療を選びました。僕は最期まで自宅で過ごしたいと・・・自然豊かな光が丘の小さな家をこよなく愛し、穏やかで自立した日々を大切に過ごしておりました。
亡くなる前日の十一月三十日は土曜日でお見舞いに訪れた長男長女夫婦とも歓談を当日の日曜日は、弟妹も加わり皆さんで歓談し「有難う、サンキュウ、ハッピーライフ。」を繰り返し其々と握手をしてとっても嬉しそうでした。

振り返り、通夜から葬儀、今日に至るこれまでとこれからについて、この間、相馬灯のように逡巡して参りました。

それは、故人が本日、皆様にご報告しお伝えしたい事があったのではないかと考え思うようになりました。ひとつは、「世界遺産登録を目指すことが決まったこと」そして「江戸城再生運動の継承のこと」何よりも「皆様への感謝の心」この三つであったのではないかと存じます。

二十年前「僕は観光業で育てられた、その御恩返しをしたい」と「江戸城再建の夢を共有してほしい。これは、夢のような話ではなく魅力ある国づくりの象徴なのです。」と市民団体「江戸再建を目指す会」を立ち上げました。

日々の充実感のある一方、平坦な道はなく山あり谷ありの連続でございました。しかし、数千数万の多くの人々の夢、想いを共有し様々なご支援や浄財を戴きました。其れこそが故人の決して諦めない意志・喜びや愉しみでありエネルギーの源泉となっておりました。

昨年、「遂に山は動いた、難関は突破した。極めて重く厚かった扉は開いたのだ、東京都だよ！！ブレイクスルーだ、」と故人は大きな声で叫びました。
東京都は昨年度中長期計画で世界遺産登録を目指すことを明確化し7月、都知事候補の小池氏は個人の公約として世界遺産登録を目指すとし九月下旬都議会の知事答弁でも「文化遺産の継は現代に生きる我々の責務である。」とし文化庁等関係省庁と協力をして取組むことを明言するに至りました。

高度経済成長下、東京の再開発は、天高く機能的な美しい摩天楼が数多く形成されて行きました。

一方、かつての江戸の歴史や文化はいつしか忘れ去れていくかのようでした。

世界遺産登録を目指すということは、愈々、かつての日本最大の城郭都市・史跡の国宝である江戸城跡の「歴史的建造物群の全体整備及び本丸御殿復元の検討」と共に「江戸文化の再生」に向かい持続可能な歴史文化資源を活かした観光まちづくりの取組がスタートすることを意味する事と存じます。

世界遺産になる為にはユネスコの諮問機関である国際 NGO イコモスによる世界遺産の思想・真実性、完全性等一の厳格な審査基準一即ち、本物であることの証明等、具体的な取り組みが求められます。
従って、皇居東御苑にある400年前造られ現存する天守台は本物であり、一方、天守の本物の復元図は現存していないこと等、即ち、現存する本物の台座の価値を超えない限り事実上、台座の上には天守建築が不可能となることも意味することになると存じます。

振り返り、2017年一月に財団を設立しました。同年七月東御苑の台座の上に天守を再建することは事実上、不可能であるとの決断に至りました。そこに至るは苦渋の決断と厳しい道のりがございました。

その背景は、江戸城跡は世界遺産に匹敵すると云われて久しいこと、日本は国際憲章・ベニス条約を批准しており、特に国宝級の文化財は国内外の法的観点からも厳しい目が注がれておりました。それらを踏まえて、同年、十月には「世界的評価に資する江戸城全体整備構想」へと大きく展回を図り舵を切りました。八年前のことです。

2021年十二月「近未来の世界遺産目指す江戸東京の歴史文化資源を活かした観光まちづくり」―「提言書 VISION 2032」へと結実し、先んじて千代田区長訪問への普及啓発及び提言活動をスタートするに至りました。

故人曰く「世界遺産を目指し江戸城再生を先んじて標榜してきた唯一の市民団体だ、バルセロナのサグラダファミリアのように持続可能な市民のアクションが必要だ、千年の寿命を持つ江戸城に寄り添うためにも「トップダウンではなく市民よる夢と希望を分かち合う事が大切、江戸城再生の事業と運動の共創を標榜しつつ継承することにより必ず道は開かれる。そのプロセスが大事なのだ。」というのが故人の持論でもあり願いであったのではないかと存じます。

「ご支援いただいた多くの方々のお蔭で今がある、目の黒いうちにここまで来て良かった、極めていた難関は突破し重い扉は開いた。これで御礼が出来る。」と喜んでおりました矢先でございました。おそらく、今日もこの式場を歩き、お一人おひとりの皆様に笑顔で握手を求めていたと存じます。「有難う、Thank you so much。」と。故人がみなさまにお伝えしたかったこと、それは、「有難う」感謝のひとつと言ったと存じます。

この間を振り返り、小竹直隆さんの「存在の大きさと決して諦めない強い意志」を感じます。二十年前の設立当初、思想・政治・宗教等の何のバックもない、資金も知恵もない、しかし、江戸城再生の夢・想い、困難に立ち向かう情熱があった楽しかったあの頃に一度立ち返ろう。原点に回帰する必要があるのではないか、と考えて参りました。その上で、残された私たちは、小竹さんの遺志を次世代に「継承する」ことを使命とすると同時にみなさまとご一緒に歩んでいけたらと存じます。

改めて、小竹直隆さんの生前のご厚情に深く感謝申し上げます。どうか、今後共ご支援を賜わりますよう、感謝とお願いを申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

令和七年二月二十日



1997年 東京観光財団 旧東京コンベンション・ビジターズ ビューロー 初代専務理事



メッセージ

辻 のぞみ様 元 TCVB 元名古屋短期大学教授

私は東京コンベンション・ビジターズビューロー創立時に JNTO（現：日本政府観光局）から出向し小竹さんに大変お世話になりました。

東京コンベンション・ビジターズビューロー（現：東京観光財団）は1997年に東京都と東京商工会議所や民間企業等が東京の観光振興、インバウンドに取組む組織として設立され、小竹さんは初代専務理事でした。本日会場に展示されていた小竹さんがお殿様に扮した写真は、翌年開催された ICCA（国際会議協会）の総会のオープニング時のものです。横に写っている腰元が私で、その隣は川野さんでした。小竹さんは堂々されていて本当にお殿様そのものでした。

当時の職場では色々なことをはっきり言いながら議論する雰囲気もありました。私には新鮮で楽しかったという思い出があります。後に江戸城再建のお話を伺った頃、私は転職して名古屋にいました。定年退職後はフリーの通訳ガイドもしており、色々な所で徳川家康の存在の大きさを感じています。小竹さんの念願の運動が進んでいくことを願っていますし、私も何かできることがあればと思っています。ありがとうございました。



2004年 六本木ロータリークラブ初代会長

東京六本木ロータリー創立総会 2004年11月22日



メッセージ

齊藤 明子様 六本木ロータリークラブ 元会長

小竹さんとは東京六本木ロータリークラブ設立時にチャーターメンバーとして入り、お知合いになりました。小竹さんは初代の会長で準備期間を含めて1年半会長をして頂きました。私は例会の司会進行を担当1年半ご一緒させて頂きました。

とても、ほがらかで優しい方でした。例会が終わると必ずお声をかけて戴きました。

「お疲れ様とか今日は元気だったね」とか、いろいろ感想を頂きながら1年半頑張れたと思います。

例会の会長報告の際には小竹会長の独特なポーズがあり少し斜めに向かってマイクの細い首の先のスポンジを動かしながら会長報告をされていました。

私は司会席で今日は何回動いたかなと見ながら1年半、小竹会長のもとでやらせていただいたのを懐かしく思い出します。

お蔭さまで私達は今年創立20周年記念礼会を開催させて頂きました。クラブの歴史をお知らせする画面になると一番に小竹会長のお顔が出ます。小竹さんと接しなかった新人会員も小竹さんが初代会長という認識を全員持っています。私達は、これからもずっと頑張って活動していこうと思います。

小竹さんも未永く見守っていただけたらと思っております。

皆さま、ロータリーにも是非ご参加下さい、一緒に活動させていただければと思います。

小竹さん、本当にありがとうございました。どうか、安らかにお休みください。

これまでの歩みのスタートにあたり

2020年に策定した今日的意義をご参照いただければ幸いです

江戸東京歴史文化ルネッサンス

2020年 今日の意義の検証

1. 世界の首都は、今、歴史的文化的創造の時代に入り熾烈な都市間競争にある。
先進諸国のトレンド「クリエイティブシティ」の取り組みは歴史や多彩な文化の奥深さにより都市の品格を高めている。2019年12月京都宣言では、国連の世界観光機関（UNWTO）と国連の教育科学文化機関（ユネスコ）は、観光と文化への貢献を強化し、持続可能な開発目標へのプロセスを促進させている。
2. 「東京文化ビジョン」が掲げる伝統と革新が共存し融合する都市東京の独自性と多様性は、江戸文化やアジア、欧米に開かれたコスモポリタンの文化を発展させて、現在に至っている。
しかし、既に、首都東京には、世界に誇るべき莫大な歴史文化遺産が埋蔵されている。
3. 江戸城跡は、日本一壮大で美しく、城門や石垣、豊かな水を湛えた外濠や内濠は、昔の姿を今に残し、失われた天守や本丸御殿の痕跡は、往時の姿を思い起こされる。このように雄大な景観に包まれた特別史跡江戸城跡は、充分に世界遺産に匹敵すると云われて、久しい。

一方、城下町に集められた武家や民衆にかかわる遺産、ジェンダー等の社会の問題や矛盾また開発によって生じた災害にかかわる遺産なども残されている。

こうした江戸東京の歴史や文化を世界の人々と「感動を分かち合う」為にも、その遺産について人類共有の歴史文化遺産としての本質的な価値を明らかにし、本丸御殿の復元検討を含む江戸城全体整備構想の策定を目指し、私達の使命は、次世代に継承し近未来の世界遺産を目指していく。

4. 高度経済成長期を境に、首都東京の空高く、摩天楼は今に続く。都市開発の一方で、東京の歴史性が失われてきたことは否めない。現代都市文化と歴史的景観及び自然環境を尊重する都市の有り方や開発に向けて、私達も自らに問いつつ共に学び、そして声を上げていこう。
5. 東京の各地域では、産学官民大小のコミュニティや団体による江戸東京の多彩な文化や歴史を活かした活動や“まちづくり”が、展開され市民の誇り（シビックプライド）となっている。多様な主体とゆるやかな交流により江戸東京の歴史文化資源を活かした観光まちづくりに貢献していく。

以上の観点から、私たちは、このテーマを具体化するための調査研究を進めると共にその成果や今日的意義を通し、普及・啓発・提言の活動を展開していく。

2020年（令和2年）12月

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス

江戸城再建 市民運動 - これまでの歩み -



2004年12月江戸城再建を目指す会設立
小竹直隆氏 江戸城再建を目指す会 理事長
(トラベルジャーナルインタビュー)

夢のような話ではなく 魅力ある国づくりの象徴です

「国の光」が欠けている東京

東京が誇る観光素材とは何か。確かに東京には、浅草寺、東京タワー、新都庁舎、大名庭園といった名所は存在する。しかし、「都市としてのダイナミズムはニューヨークに、歴史と伝統はイギリスに、華やかさではパリにかなわない。これこそが東京と圧倒されるようなものがありますか?」。「観光とは国の光を観ること。その光をつくらなくてはいけない。それこそが江戸城であり、江戸城を再建しようと思う日本人の心だと考えたのです」

夢を共有してほしい

「まず、江戸城再建という夢を共有してほしい。そして、目指すは江戸城再建そのものより、その風潮づくり。ただのハコモノをつくれればいいのではなく、国を盛り上げていく過程そのものが、大事なのですよ」

この国は今、ビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）などを展開し、小さな一歩を踏み出したばかりだ。「今、この国の“かたち”が問われている」。一人ひとりの日本人が自国に目を向けずして、観光立国の実現はないと言い切る。

「日本という国は今、航を失った船のようにさまよいつつある。江戸城再建というシンボリックなモチーフを掲げることで、夢を希望、自信と誇りを持てる国へと変わることができるはずです」

旅行業界の取り組みにも苦言を呈す。くにづくり、まちづくり、人づくりの総合プロデューサーとしての自覚を持ち、先頭に立ち観光立国の機運を高めるべきと訴える。

草の根運動により必ずや道は拓かれると信じている

小竹の持論は、「観光の本質は国づくりにある。観光とは中国の易経に由来する言葉で、『国の光を観る』。光は人を惹きつける魅力、磁力だ。だから、『再建江戸城』は単なる観光シンボル、箱ものではない。世界が認める日本固有の江戸の歴史と伝統、日本の文化を再評価し、そこからさまよえる日本の再生、磁力を持った国づくりの道筋の一つにしたい」ということで、夢は広がっていく。



むしろ、「目指す会」は「日本をどうするのかというテーマを掲げて国民運動を興していく。トップダウンではない草の根の運動が盛り上がれば、必ずや道はひらかれると信じている」

2003年 世界遺産 江戸城再生を目指す もう一つの源流 竹田軍育さんの記事

私（竹田軍育さん（JAL））が小竹さんから江戸城再生の話を伺ったのはある観光学会の時であった。痛く同感して、その江戸城再生の話を雑誌に書いたのを岩見隆雄先生の目に止まり、岩見先生が「選択」の心躍る江戸城再生運動やサンデー毎日に3回連載された「いいなあ江戸城再生の構想」に繋がり、広く一般に広がっていくことになった。竹田さんはその後、街頭署名などいろいろの機会を通じてお手伝いさせて戴いていた。

竹田軍育さんの書かれた記事もまた、江戸城再生の源流の一つになっている。

岩見 隆夫さんとの出会い

選択編集部を通して初めてお逢いした岩見先生（評論家）は江戸城再生に痛く感動してお話は盛り上がった。そのご、総会や催事にご出席戴くなどの交流が続いた。

サンデー毎日



2003年3月30日号

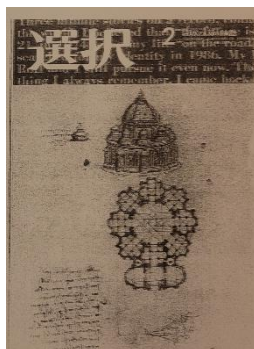


小竹理事長

岩見隆雄さん 選択の方々 2005年10月24日

選 択

2006年2月1日号



2004年12月11日 任意団体 江戸城再建を目指す会 設立総会

2004年12月政治・宗教・思想等の何のバックもない市民団体として「江戸城再建を目指す会（後のNPO法人）」を創立しました。観光業界、都市計画、経営コンサルタント、会社役員等、市民60数名の参加により、理事長に小竹直隆さんを選任しました。



2006年11月を目途にNPO法人化する。まずは地道な草の根活動を始め、それを積み上げていきたいという。「少しでも興味を持つ人の輪が広がれば、いつの日かひとつの大きなムーブメントが生まれる」と信念は揺るぎない。



2005年4月30日 江戸城再建を目指す会 第1回総会

「江戸城再建」夢の実現に向けて、“草の根”の輪が拡がり始めた！

任意団体「江戸城再建を目指す会」の第一回会員総会が去る4月30日、東京都千代田区の弘済会館で開催された。参加者は80名に達した。

総会では、協賛、支援団体からの特別メッセージの後、4つのグループに分かれて分科会を開催。参加者全員による自由闊達な意見交換の場となり活気溢れる分科会となった。

分科会では別室の通り本年度新役員の顔ぶれが発表された。

総会では別項の通り本年度新役員、事業計画、収支予算、会則などを決定。

今度は会員向けの活動を充実させると共に、更なる会員拡大に向けて“草の根”の輪を拡げつつ、来月1月にはNPO法人の設立を目指すことが満場一致で決議された。



2005年4月30日



2006年NPO法人の「認証」を受ける

2006年9月23・24日
東京ビッグサイト 世界旅行博 出展



小竹理事長

運輸省の方々

丹羽会長



2006年9月



事務局スタッフと打ち合わせ

2008年 会員総数1000名達成記念集会

② 11.7 会員総数1,000名突破を祝う会、大盛會に舉行、参加者250名を超える！

六本木にて、「江戸城再建の志」を高らかに宣言！

11月7日、私たちの会の会員数1000名突破を祝う会が、創設されたばかりの観光庁、千代田区議会、並びに千代田区内の民間諸団体など、各方面からのご来賓をお迎えし、六本木ヒルズ ハリウッド・ビューティー・プラザ5階の大ホールで開催されました。「江戸城を再建して、この国を夢と希望、自信と誇りを持って国にしていきたい」という**壮大な夢を実現する力はこれを超える人の数です**。この2008年10月、会員総数が1000名を突破しました。私たちの会は、更に、「会員一人が知人の二人に夢を語って新たな会員になっていただく！」。このような会員一人一人の働きかけを通じて、会員数を三千、五千、一万人と増やし、現在の草の根を国民運動に発展させようとしています。

「祝う会」の第1部ファッション・エッセイスト、フランソワーズ・モレシャン 女史による記念講演、2部パネルディスカッション、3部懇親会の模様は6ページに亘る当会のホームページ http://npo-edojo.org/pdf/1000_report.pdf をご覧ください。ここでは、スペースの関係上、ご発言のご一部を紹介させていただきます。

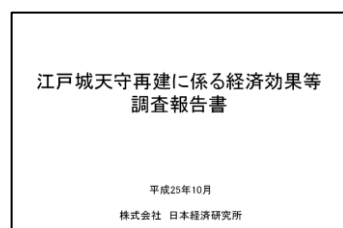


2011年 認定NPO法人の 「認定資格」を取得する

事業主体設立に向けて
事業検証・経済波及効果等
調査研究が始まる



2013年（平成25年）12月
日本都市計画学会



2013年（平成25年）
日本経済研究所



2015年11月
発表記念集会



2015年12月19日
読売新聞 夕刊1面

2015年
会員総数4000名達成

2016年
賛同署名26,000筆を達成



2015年3月総会決議

NPO 法人12年の集大成として
新たな事業主体を設立する

2016年6月から12月

民間の企業・団体等による
「検討会」開催

天守再建歴史文化まちづくり
グランドデザイン報告書

2016年12月

特定非営利活動法人 江戸城天守を再建する会



設立予定の一般財団法人へ提言

2017年 特定非営利活動法人
江戸城天守を再建する会
総会決議（報告）

江戸城天守

寛永度江戸城天守 復元調査研究報告書

平成28年

特定非営利活動法人 江戸城天守を再建する会

2016年（平成28年）
寛永度江戸城天守 復元調査研究報告書

2017年7月26日

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス 設立

旧・一財) 天守再建歴史文化まちづくり

報告会

特別史跡江戸城跡における天守再建等本格的な学術調査研究を進める為、事業と運動の共創による一体的発展を目指して、前述のNPO法人理事長小竹直隆を始めとするNPO法人等の役員により、政治的、思想的、宗教的に何のバックも持たないと同時に企業の運用益にたよらない徹底した非営利法人として市民運動の王道を歩むことを再確認し、清々粛々として活動を開始した。

2017年1月24日財団設立以降ただちに台座問題に取り組みを開始、文化庁、東京都・千代田区及び関係機関、学識者を含めた意見交換を行った結果、一特別史跡江戸城跡に存在する台座の上の天守建築は、学術的、国際憲章並びに歴史的文化的等により極めて難題が多いこと一方2017年前後の下記の環境変化を踏まえてさらに検討進めることが必須であると小竹理事長より説明・報告がされた。

*** 2018年前後は、文化財保護法の改定をはじめ歴史まちづくりに関連する多くの関連法等の改正が行われた。亦、世界の首都は歴史と伝統文化による国際間競争の激化時代を迎えてインバウンドの急増や世界遺産登録等のブームにより世界遺産登録への注目の高まりもあり、同時に国連は持続可能な開発目標（SDGs）に向けて観光と文化の貢献を強化する等、文化観光立国をとり巻く内外の環境は著しく変化を続けていた。以上の観点及び前述の報告から検討を深めることが必須であるとした。**



川村理事

小竹理事長

齋藤副理事長

2017年7月26日 財団設立の説明会



基調講演「江戸城の歴史について」
講師 後藤 宏樹氏（江戸城のスペシャリスト）
当時 千代田区地域振興部文化振興課
文化財担当 主査

2017年 「構想の転回」 「世界遺産を目指す江戸城再生」へ向けて

文化観光立国を取り巻く内外の環境変化

この間、世界の首都は歴史と伝統文化による国際間競争の激化時代を迎えインバウンドの急増や世界遺産ブームにより注目度は高まり、国連は持続可能な開発目標（SDGs）に向けて観光と文化の貢献を強化する等、国内においては2016年熊本大地震により天守台の石垣が崩壊、2018年文化財保護法等の改定をはじめとする多くの関連法の改正等、2018年を前後して文化観光立国の取り巻く内外の環境は著しく変化を続けています。

2017年1月24日財団設立の直後の2月以降、東御苑の「天守の台座（以下台座という。）」について取り組むべく行政や学識者、専門研究者等と様々な角度から意見交換や検証を進めて参りました。その結果、

1. 特別史跡江戸城跡（史跡の国宝）に存在する「台座（国宝）」は、文化財のグローバルスタンダードや歴史的文化的経緯、理念的かつ、技術的などの課題からも皇居東御苑の台座の上に天守を建築することは、極めて難題が多く、事実上、不可能であると認識し天守建築を断念しました。

2. 同時に、同年10月、世界的評価に資する本丸御殿を含む江戸城全体整備構想へと「構想の転回」を図り、「江戸東京歴史文化ルネッサンス・VISION」を策定しました。

亦、江戸城跡は世界遺産に匹敵するといわれて久しく、今後、世界遺産登録を目指すことを視野に入れて「世界的評価に資する江戸城再生」と取り纏めたものです。

詳しくは、特別史跡における天守や本丸御殿、城門等歴史的建造物の復元のあり方について

https://zaidan-edojo.or.jp/uploads/tokubetusiseki_20210426_20220131.pdf

「2017年構想の転回」その主な観点は以下の通り

1) 天守は創作となる危惧

現存する皇居東御苑の台座は加賀藩により万治度に造られた「本物」です。天守は現在の台座の上に建築されたことは一度もなく、万治度の「復元図」も現存しておらず、その為、天守を建築する場合には、「創作の天守」になる危惧があることは否めないと判断しました。

2) 世界遺産は、いかに、「本物である」か、明示することが求められている。

世界遺産は普遍的価値を有し、その価値は一国を超越するものであり、その保護は一国を超えた世界の義務であるとしています。文化遺産価値の真実性や完全性の評価についてもその両面から具体的に証明する一即ち、「本物かどうかの証明」をしなければなりません。

3) 東御苑にある台座と国際憲章・ベニス憲章による原則禁止

ベニス憲章は記念建造物や遺跡の保全と修復の為の建造物の再建については基本原則として禁止しています。その精神は世界遺産条約に引き継がれて1992年日本政府はそれを批准し、現在に至るまで、実行し続けています。

4) 江戸幕府の歴史的英断、町民の救済と復興優先、再建が行われなかった意義：

明暦大火（1657年）により市街の6割が焼土と化し、10万人以上の尊い人命が失われたことから、江戸幕府は、万人塚（回向院）において無縁仏の鎮魂のための大法要を取り行いました。保科正之公はこれにより、焼失した天守再建をするよりも、江戸町民の救済や復興、防災を優先したという事実があり、同時に、戦いの世は終わったとして、天守不在自体が平和の象徴になったといわれています。

このように、「江戸幕府の英断」という歴史的事実があり、以降は本丸御殿の富士見櫓が、青海波(模様)に平和の願いをこめた美しさと眺望を兼ね備えた実質の天守として扱われ、各諸藩でも幕府への遠慮から、天守再建は行われなかったと云われています。

このように、時代と共に、城の役割が変わっていったということが、良く分かります。以上のことから歴史的事実に基づく「時代的整合性」と、明暦大火で10万人以上の尊い人命が失われたことへの鎮魂など「歴史的事実やその関係性」の重要性をどのように受け止め、後世に継承するのか、も問われています。

5) 市民運動の王道を歩むことを再確認・世界的評価に資する江戸城再生

即ち、「江戸城再建を目指す会」設立当初は、江戸城再建を優先課題としてきた経緯もあり、前述の観点を踏まえて天守再建を断念し世界的評価に資する「本丸御殿等、江戸城全体整備構想」に転回し、改めて、政治的、思想的、宗教的に何のバックも持たないと同時に企業の運用益にたよらない徹底した非営利法人として、市民運動の王道を歩むことを改めて、再確認し理事会決議するに至りました。

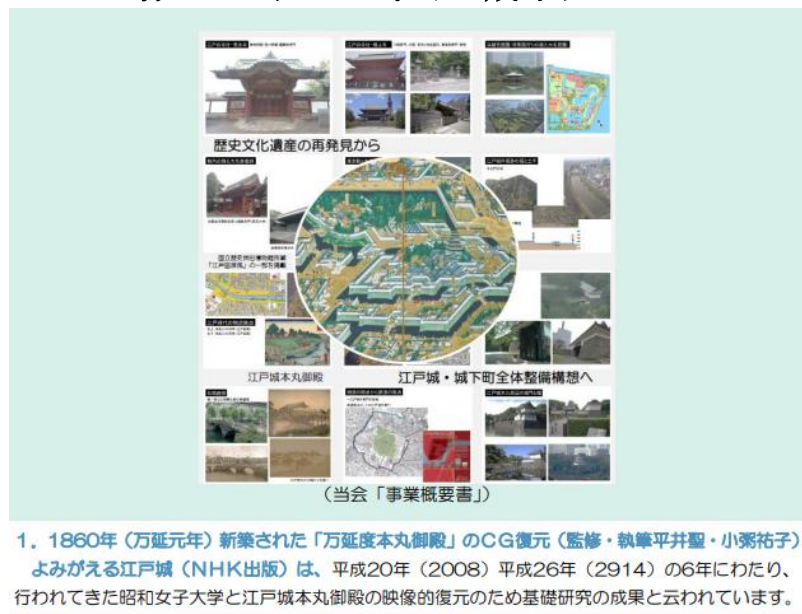
ご存じですか？江戸城天守台のこと



江戸城 天守台の石垣

https://zaidan-edojo.or.jp/uploads/2021/04/gozonji_ishigaki20210427.pdf

ご存じですか？江戸城本丸のこと



1. 1860年(万延元年)新築された「万延度本丸御殿」のCG復元(監修・執筆平井聖・小粥祐子)
よみがえる江戸城(NHK出版)は、平成20年(2008)平成26年(2014)の6年にわたり、
行われてきた昭和女子大学と江戸城本丸御殿の映像的復元のため基礎研究の成果と云われています。

https://zaidan-edojo.or.jp/uploads/2021/04/gozonji_honmaru20210426.pdf

2017年11月 世界的評価に資する本丸御殿など 江戸城全体整備構想への転回 VISION報告会



江戸城「江戸図屏風」国立歴史民俗博物館所蔵 (小澤弘・丸山伸彦編『図説江戸図屏風をよむ』より転載)



「江戸東京博物館所蔵」江戸城本丸松の廊下



「江戸東京博物館所蔵」江戸城本丸 大広間の断面



「江戸東京博物館所蔵」江戸城本丸 大広間の断面2

会報誌17号 特別企画 特別企画

「本丸御殿や城門等江戸城の全体整備構想の策定」を視野に入れた本格的な学術調査研究が必須であることの認識を深め、次のビジョン策定を行った。

2017年(平成29年10月)「江戸東京歴史文化ルネッサンスビジョン5カ年基本計画」(https://zaidan-edojo.or.jp/uploads/2021/04/5kanen_2017.pdf)を策定した。即ち、天守単体を断念し「本丸御殿等、江戸城全体整備構想策定並びに歴史文化まちづくり」へと、新たな事業と運動への構想転回を図ったものである。

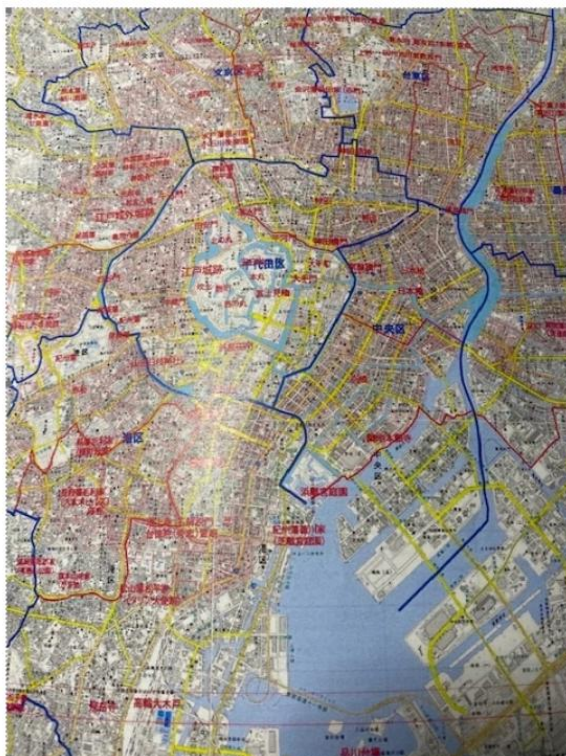
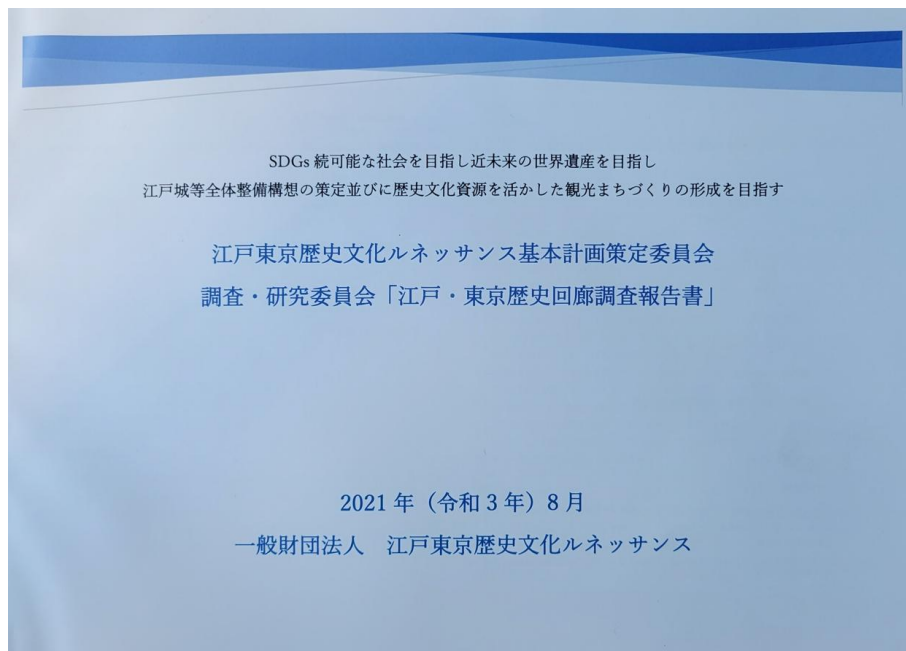


2017年11月30日 第2回 基調講演・報告会
基調講演「江戸城と文化財」講師 浅野啓介氏
当時 文化庁文化財部記念物課 史跡部門 文化財調査官

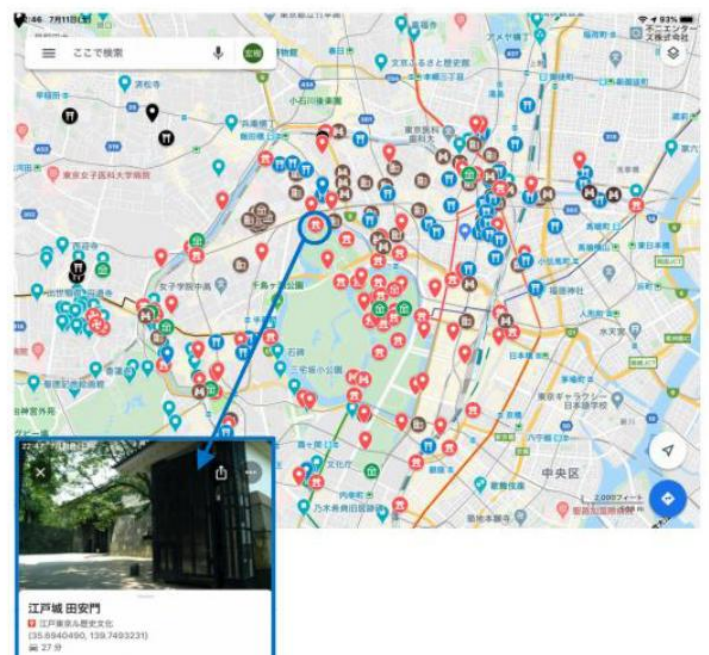
<https://zaidan-edojo.or.jp/activity/seminor/seminor2/>

2018年 江戸城の総構えを俯瞰して 初の本格的学術調査、いよいよ始まる

行政にはできない大胆な質の高い提言を目指し、今回の調査・研究委員会は、江戸東京の文化芸術の振興並びに歴史文化資源を活かした観光まちづくりに寄与するための第一歩であると考えた。この調査により行政単位の区割りを超えて、江戸城の文化財の分布状況の全体像が初めて示され、行政及び関係者からも好評を得た。



江戸城・城下町 地域別(区別)の歴史文化遺産分布
天下の府 江戸城・城下町の広範囲に多くの歴史文化遺産の痕跡が分布しています。
文化財の分布の全体像がマップ



左記のデジタル版

2020年10月 財団設立3周年記念行事 開催

近未来の世界遺産を目指し 江戸城全体整備構想の策定並びに江戸東京の歴史文化まちづくりを目指して 日本イコモス国内委員会と共催

近未来の世界遺産を目指す
**江戸城全体整備構想の策定並びに
江戸東京の歴史文化まちづくりを目指して**

設立3周年記念 シンポジウム&パネルディスカッション

(50音順・敬称略)

第I部 基調講演 東京に宿められた水都としての可能性

講師：江戸東京歴史文化のフィールドワークのパイオニアにして、第一人者
陣内秀信 法政大学江戸東京研究センター特任教授 (略歴・写真裏面)

第II部 調査報告 旧江戸城外濠内の歴史文化遺産の調査

後藤宏樹 都市史研究家 (江戸城プラタモリ案内)

第III部 パネルディスカッション

基調講演、調査報告を受けテーマの基本的な視点や課題、今後の方針について議論を深めます。

- ・400年以上の歴史を踏まえた江戸・東京を問います
- ・失われた天守や御殿などの歴史建造物の復元は？
- ・文化遺産の意味付け、ストーリー・観光から世界遺産化に向けての一連の流れは？
- ・産学官民による歴史文化まちづくりプラットフォームづくりの可能性を探る

パネリスト：第一線で活躍する研究者

岩瀬令治 海野 聡 清水哲夫 中島直人 福井恒明 (略歴・写真裏面)

開催日：10月18日(日) PM2時から4時50分

会場：日比谷図書文化館大ホール 後日YouTubeによるオンライン配信でご覧になれます。
*配信日等については、改めてホームページ等でご案内させていただきます。

共 催：一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス

共 催：一般社団法人 日本イコモス国内委員会

後援：千代田区、東京文化資源会、法政大学江戸東京研究センター、外濠再生懇談会、
日本イコモス国内委員会第18小委員会、公益財団法人日本ナショナルトラスト、
NPO法人水都東京を創る会、谷根千原、文化倶楽部他多数依頼中

* (一社) 日本イコモス国内委員会とは、国際連合教育科学文化機関 (ユネスコ) の諮問機関として、1965年に設立した世界遺産登録の審査、モニタリングの活動を担っている国際的な非政府組織 (NGO (NPO)) の国内委員会です。文化遺産保存分野の第一線の専門家や団体470の機関が参加する活動を行っています。
参照：IOMOS Japanのウェブサイト (<http://iomosjapan.org/>)



基調講演 講師

陣内 秀信 法政大学江戸東京研究センター特任教授

略歴：東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。イタリア政府給費留学生としてヴェネツィア建築大学に留学、ユネスコのローマ・センターで研修。専門はイタリア建築史・都市史。建築学会会長、地中海学会会長、都市史学会会長を歴任。パレルモ大学、トレント大学、ナポリ大学、ローマ大学の契約教授を務めた。中央区立郷土天文館館長、国交省都市景観大賞審査委員長他。
著書：『水都東京-地形と歴史から読みとく下町・山の手・郊外』(筑摩書房、2020) 他。
受賞：サントリー学芸賞、地中海学会賞、建築学会賞、イタリア共和国功労勲章、建築学会賞、パルマノ水の書物国際賞、ローマ大学名誉士号、サルデーニャ建築賞、アマルフィ名誉市民、ANCSAアルガン賞他。



パネリスト

岩瀬 令治 学習院女子大学国際文化交流学部日本文化学科教授

専門分野：日本近世都市史 都市「江戸」の表象 近世考古学との学際研究等。
略歴：1966年、東京都生まれ。学習院大学文学部史学科卒。東京大学大学院人文社会科学研究科単位取得退学 (1999年博士 (文学) 取得)。江戸東京博物館専門研究員、国立歴史民俗博物館助手・准教授を経て現在に至る。
著書：『江戸武家地の研究』(塙書房、2004年)、『中世歴史』(山川出版社、2020年、共著) 他。
外部活動：慶應義塾大学大学院・学習院大学大学院非常勤講師、史学会理事、都市史学会編集委員、中世城館・近世城郭遺跡等の保存に関する検討会委員 (文化庁)、東京都文化財保護審議会委員等。



海野 聡 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻准教授

専門分野：日本建築史博士 (工学)。法隆寺・延暦寺から民家まで、幅広い歴史的建造物の調査・研究や発掘調査からの建物の復元などを手がけた。古建築の魅力や見方を広く伝える活動を行っている。
略歴：1983年、千葉県生まれ。2008年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。2009年奈良文化財研究所研究員。2018年10月より現職。
著書：『文化遺産とく「復元」-遺跡・建築・庭園復元の理論と実践-』(吉川弘文館) 他。
外部活動：日本イコモス木の委員会副委員長・建築史学会編集委員等他多数。



清水 哲夫 東京都立大学大学院都市環境科学研究科教授 (調査研究委員会・座長)

専門分野：研究分野は交通学および観光政策・計画学で、特にIntelligent Transport System、交通需要推計手法アジアメカシティーの交通ビッグデータを主要な研究課題としている。
略歴：1993年東京工業大学工学部土木工学科卒業。1995年東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻修了。2002年に東京工業大学から博士 (工学) 授与。2001年東京工業大学理工学研究科助手。2007年同准教授を経て、2011年より現職。
外部活動：2017年より公益社団法人日本観光振興協会総合調査研究所所長兼日本観光振興アカデミー学長を兼務。その他官公庁や自治体の多数の専門委員会委員他。



中島 直人 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻准教授

専門分野：都市計画
略歴：1976年、東京都生まれ。東京大学工学部都市工学科卒、同大学院修士課程修了。博士 (工学)。東京大学大学院助手・助教、イェール大学客員研究員、慶應義塾大学専任講師・准教授を経て、2015年4月より現職。
著書：『都市計画の思想と場所 日本近現代都市計画のルーツ』(東京大学出版会、2018年) 他。
外部活動：国際都市計画史学会理事、杉並区まちづくり景観審議会会長、千代田まちづくりサポーター審議会会長他。



福井 恒明 法政大学デザイン工学部教授

専門分野：景観工学、都市景観、景観行政、社会基盤構造・空間のデザイン
略歴：1979年、東京都生まれ。東京大学工学部土木工学科卒、同大学院修士課程修了。清水建設、東京大学、国土交通省国土技術政策総合研究所、法政大学デザイン工学部准教授などを経て2013年より現職。
外部活動：江戸東京研究センター、外濠市民塾、外濠再生懇談会、千代田区景観アドバイザー、都市景観大賞審査委員等。



調査報告・アドバイザー

調査報告 後藤 宏樹 都市史研究家
アドバイザー 岩谷 勇雅 (一社) 日本イコモス国内委員会副委員長、元文化庁文化財調査官
矢野 和之 (一社) 日本イコモス国内委員会事務局長、文化財保存計画協会代表

(2020年8月)



共催者

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス
理事長 小竹 直隆



共催者

一般社団法人 日本イコモス国内委員会
副委員長 岩谷 勇雅



アドバイザー
都市研究家

後藤 宏樹 氏



アドバイザー
日本イコモス国内委員会

理事 事務局長 矢野和之氏



事務局スタッフ

基調講演&報告・パネルディスカッション 共催者ご挨拶

機関誌 9-0

近未来の世界遺産を目指し

財団設立 3周年記念行事

シンポジウム&パネルディスカッション

「本丸御殿の復元検討を含む江戸城等全体構想の策定並びに
江戸東京の歴史文化資源を活かした
観光まちづくりの形成を目指す」

第1弾

2020年10月18日

共催 一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス

共催 一般社団法人 日本イコモス国内委員会

後援 千代田区、
東京文化資源会議、外濠再生懇談会、法政大学江戸東京研究センター、
(有)谷根千工房、(一社)文化倶楽部、
(一社)日本イコモス国内委員会第18小委員会：文化的景観
(公財)日本ナショナルトラスト、NPO法人 粋なまちづくり倶楽部、
NPO法人 たいとう歴史都市研究会、環境NGO E・C その他依頼中

目次		
	頁	
9-1	1	江戸東京歴史文化ルネッサンス 2020年 今日的意義の検証
9-1	2	共催者ご挨拶 一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス 理事長 小竹 直隆
9-1	3	共催者ご挨拶 一般社団法人 日本イコモス国内委員会 副委員長 刈谷 勇雅
9-1	4	会場の様子 プロジェクト事務局スタッフのつぶやき
9-2	5	来賓ご挨拶 国連世界観光機関 駐日事務所 代表/初代観光庁 長官 本保 芳明
9-2	6-7	第1部 基調講演 法政大学江戸東京研究センター 特任教授 陣内 秀信
9-2	8	第2部 調査報告 都市史研究家 後藤 宏樹
9-3	9-12	第3部 パネルディスカッション 学習院女子大学 国際文化交流学部 日本文化学科教授 岩淵 令治 東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻准教授 海野 聡 東京都立大学大学院 都市環境科学研究所教授 清水 哲夫 東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻准教授 中島 直人 法政大学 デザイン工学部教授 福井 恒明
9-4	13-15	
9-4	16	第一線で活躍する気鋭の研究者へ 期待こめたメッセージ 一般社団法人 日本イコモス国内委員会 事務局長 矢野 和之
9-0	17	調査研究委員会・シンポジウム&パネルディスカッション 参加メンバー
その他資料		役員等一覧など

「江戸城・城下町ルネッサンス」第9号 2020年11月
第9号(2020年11月23日)「財団設立3周年記念行事 シンポジウム&パネルディスカッション」
https://zaidan-edomo.or.jp/uploads/2021/03/09_kikanshi9_1_20210129.pdf
https://zaidan-edomo.or.jp/uploads/2021/03/09_kikanshi9_2_20210129.pdf

ボランティアの皆さまと役員の 座談会

これまでの運動を振り返り、問いかけ語り合う座談会を開催しました



いま、歩くこの道は、将来に近未来に続いています。

その道を創るのは、あなたと私、私達です。

それは、日本最大の城郭都市東京です。

その実現に向け、次世代に継承する事が極めて肝要になっています。

「江戸東京の歴史文化資源を活かした観光まちづくり」の運動に参加ませんか？

私達ひとり一人の誇り、シビックプライド（市民の誇り）と、なるでしょう。

財団設立3周年を記念し、皆さまに送る想いを

三つ葉のクローバーに託しました。

夢・希望 DREAM・HOPE 江戸城再生により近未来の世界遺産を目指します。

愛 LOVE 夢や希望を願う想いの下、愛は生まれます。

信頼 TRUST たった一人の力は小さくとも繋がりあうことを大切にします。

みなさま、是非、一緒に運動を進めましょう。

座談会メンバー7名（30代、40代、50代、60代、〇代・・・の、皆さま



理事長 小竹

（右上から）黒田さん、山崎さん、
村井さん、川野さん、岩田さん、内田さん



世界の人々と手をつなごう！2030 SDGs 持続可能な地球社会を目指す
近未来の世界遺産を目指す 世界の人々に提案しよう！

本丸御殿など江戸城全体整備構想の策定並びに 江戸東京歴史文化資源を活用した観光まちづくり

城郭都市東京 江戸城及びその城下町の 見える化に向けて

司会：小竹理事長は、2004年市民団体 江戸城
再建を目指す会(後のNPO法人)を創設されま
した。2017年財団を設立しVISION策定さ
れた頃、どのような想いだったのでしょうか？

首都として歴史的風格ある美しさの創出

小竹：私は世界の各都市を歩き、その歴史と伝統
文化に感動し魅了され、それらを保全するために
多くの人々のたゆまぬ努力に敬意の念を抱いて
参りました。世界の都市は歴史的文化的伝統での
厳しい都市間競争をし続けています。

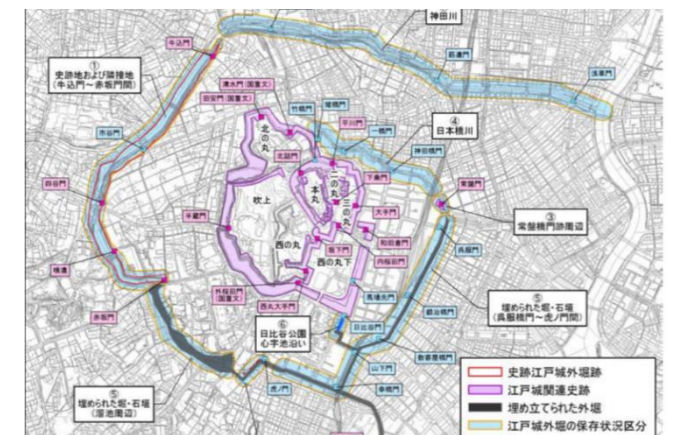
一方、江戸城跡は石垣とお濠に囲まれた美しい歴
史的景観に優れ、世界に比類無き歴史文化遺産の
宝庫であり、東京が誇るべき財産であると感じて
来ました。残念ながら城郭都市としての全体像は
見える化に至っておりません。

2017年江戸城等全体整備構想(江戸東京歴史
文化ルネッサンスビジョン計画)は旧江戸城及び
その城下町の城門や櫓、石垣やお濠等現存する歴
史的建造物の保全、本丸御殿等の失われた歴史遺
産の復元検討、その周辺の景観、自然保護、エリ
アマネジメント等の歴史まちづくり法による都
市計画全般に関わるビジョンです。

いつの日か、国内外の人々が東京を訪れる時、多
くの人々が感動されることでしょう。
私が世界の都市に魅了されたように、人類の宝と
して将来、未来の人々がその恩恵を受けられるよ
うに、私達は着実に次世代に継承していけば、必
ずや、日本最大の城郭都市の実現できるでしょう。
そのためには、いま、みな様のお力が必要なので
す。



(写真 皇居二重橋を撮影)



(機関誌第7号別冊より「江戸城の外堀跡及び関連史跡」)

黒田：陣内先生の講義を受け、江戸城は本丸、天
守、石垣、堀等の素晴らしさもさることながら、
平地ではない地形の構造を生かした巨大都市を
築き上げたこと、幕府、武家屋敷、町人町、寺社
地区、歓楽街が運河や橋でうまくリンクされてい
る交通インフラや、上下水道、ごみ処理リサイク
ル等の循環型社会の仕組みが文化的遺産である
ことを伝える価値があります。

司会：陣内先生は、多様な水資源と水辺は東京の
誇る財産であり、その再評価は自然と人間の共生
を目指す 21 世紀の世界の考え方にも大きな示
唆を与えるに違いないと仰っておられましたね。
秘められた水都としての可能性は、江戸城全体整
備構想に、より時空を超えた拡がりや深さを感じ
ます。江戸東京の価値をより、高めることになり
そうですね。

世界の人々と手をつなごう！2030
近未来の世界遺産を目指す

本丸御殿など江戸城全体整備構想の策定並びに

なぜ、学術研究が必要ですか？

小竹：特別史跡江戸城社は学術上の価値が極めて高いことです。石垣やお濠、公園や城門等に至る有形無形の国宝や重要文化財等があり、それらは、国有財産、行政財産、皇室財産もあり宮内庁、文化庁、環境省等、東京都、千代田区等の行政の管理が夫々複雑に関わっています。

考古学、文化財、建築史、歴史、観光、景観、世界遺産、都市計画等から専門分野を代表する第一線の研究者や関連組織による研究が必須となります。

また、私達にとって重要なことは、事業と運動の共創による一体的発展を目指す上での手掛かりとしても必要です。学術研究無しには、構想を策定することは無理といえるでしょう。



山崎：世界中を観光できるようになった現代では、日本だけではなく世界の人々に、将来、未来の人達にも説明が必要であると思います。広い専門分野からの学術調査を進めていくことが大変大事だと思います。例えば、将来、ビルに囲まれた「天守」という建物しか残らなかったとしたら、どう説明するのでしょうか？

川野：文化財の活用においても素晴らしく明るい過去をイメージしがちですが、暗い過去からも学び現代の問題の原点を再発見することも大事だと思います。江戸時代には都市開発により自然破壊を起こした時代だと云われ、また、身分制度が根幹にありますので様々な差別や問題をはらんだ社会であったと思います。

女性の差別問題は意識も変わり人材も出てきている今は過渡期の気もしますが、しかし、女性差別の本質は現在も変わっていないのではと思います。



司会：これまでの学校教育で、江戸から明治の時代認識はどのようなのでしょうか？

村井：明治維新による政府の欧化志向の中で、江戸の歴史認識が寧ろ抑制されてきた気配すら感じます。その為、こうしたつみ重ねが、江戸期の豊かな歴史的文化的価値に対する評価を与えて来たのではないのでしょうか？

司会：江戸と東京を繋ぐ見える化が必要ですね。

黒田：学術研究は必要です。短く言えばエビデンス（根拠）です。江戸文化の継承の意味や価値を正しく理解して広め、提言していくための拠り所であることが理由です。特に近未来、世界遺産を目指す我々は、歴史的文化的価値を、科学的に明らかにすることで、全人類に共通の言語でその価値を伝えられます。科学の広い領域からの根拠が必要であり、特に文化財保護はグローバルスタンダードになっています。

SDGs 持続可能な地球社会を目指す
世界の人々に提案しよう！

江戸東京歴史文化資源を活用した観光まちづくり

何故、SUSTAINABLE DEVELOPMENTですか？

司会：SDGs は、飢餓や貧困などをはじめとし、どれ一つとっても歴史的背景があり国連は世界の一人ひとりに呼びかけています。これら17の開発目標は当然、私達ひとり一人にも法人の全体構想やまちづくりを進める視点として必要です。

川野：主に開発目標5（ジェンダー平等の実現）12（作る責任、使う責任）、11（住み続けられるまちづくり）、17（パートナーシップ）が関係するかと思います。2019年京都宣言にもあるようにSDGsにより、文化と観光も現場でも変わりつつありますね。



（「SDGsポスター」）

黒田：パネルディスカッションでも、若い世代が今までの様な高度経済成長期のような考え方とは違うとのことでしたが？

山崎：確かに、環境破壊への問題意識やエコロジカルで歴史や文化に触れられる生活を好み、そのように生きたいという若い人達が増えています。

村井：ビルラッシュの一方で、特に歴史的な建造物を守り維持し継承していくこと、緩やかに変化し長生きする考えは非常にマッチすると思います。

何故、近未来の世界遺産ですか？

国際連合教育科学文化機関
UNESCO (United Nations Educational,
Scientific and Cultural Organization)

小竹：世界遺産登録申請は、極めて大変なものと認識しております。到底、一朝一夕に申請できるものではありません。しかし、誰かが言いだすことと次世代に継承し、繋げていくことが大切です。その継承のプロセスが重要です。

江戸城跡は城郭も壮大で四季折々の美しさや石垣やお濠も素晴らしい。世界に比類なき歴史と文化をもち、世界遺産に匹敵すると言われてきました。高度化された都心の開発でこれらの遺産を守りきれなのか、危機感もあります。

江戸城全体整備構想策定もまちづくりも世界的な評価に資する
相応しいものを
構想段階から求めていく必要があり
先ずは全体像の見える化が必要なのです。



（ユネスコの諮問機関であり、世界遺産登録の審査、モニタリングの活動等を行っている国際NGO「日本イコモス国内委員会」のマーク）

司会：現在、世界遺産は1000件を超えています。数が多くなり、2020年からは、各国1件のみの申請となり狭き門のようです。登録申請する県は、今後は審査機関などあるイコモスの協力を得ながら準備を確実にしていくことが不可欠になってくると思われます。

世界遺産の経済波及効果は持続的で大きいですから。京都、大阪、奈良の関西圏は上手く活用していますね。東京都の世界自然遺産は、遠く離れた小笠原諸島だけですから。

世界の人々と手をつなごう！2030
近未来の世界遺産を目指す

本丸御殿など江戸城全体整備構想の策定並びに

特別史跡における歴史的建造物群 復元構想イメージ

司会：昨年 12 月「右下欄の基本方針」を理事会
で決定しました。

一方、本丸御殿の復元等の江戸城全体整備構想に
ついては、皆さからも要望が多くイベントの開催
やイメージづくり等で、自由、闊達に議論を進め
たいと思います。

先ず、HP「特別史跡における歴史建造物の復元
のあり方について」理事長の特別メッセージがあ
ります(<https://zaidan-edomo.or.jp/>)。先ずは、
ご参照ください。この一線からオーバーワークに
ならないように議論を進めさせて戴きたいと思
います。

村井：本丸御殿の復元検討等の江戸城全体整備構
想策定とは、何を整備するのでしょうか

小竹：整備とは、修復、復元、新築、保全などの
維持管理を含めた広い概念と云われています。
江戸城史跡内の個々の遺構や歴史的建造物群の
状況、周辺地域の景観や自然保護、環境、また、
歴史文化に携わる人々の営みを含めた都市計画
を視野に入れた整備構想の策定になるかと思
います。即ち、歴史まちづくりです。

今回の調査では現存する文化財は、江戸城跡の他、
国の史跡である江戸城外堀跡、常盤橋門跡、国の
重要文化財として外桜田門・清水門・田安門等が
600 余程あります。失われた城門、櫓、天守、
石垣や濠、本丸御殿などの多数の痕跡は家康の時
代からいたるところに見られます。しかし、問題
はあまり知られていないことです。

これらの建造物も含めて、保全や復元の検討に当
たり、江戸城跡の歴史的、文化的価値を明らかに

し、何が重要で必要か。

例えば、本丸御殿は、江戸幕府の政治の中枢であ
り、また、将軍の住まいでありました。

江戸城再生にとっての意義や重要度、必要性が、
審議の俎上に上がると思われます。

全体構想の中でも、この周辺を主たる領域として
考えられるのではないのでしょうか。



(当会『事業概要書』より)

基本方針（2021年12月）

「世界的なコロナ・パンデミック等による社会
経済の厳しい状況下において、「本丸御殿の復元
検討等、江戸城等全体整備構想(以下、構想とい
う)」の策定は、一旦留保するものの、それらの
目指す方針は堅持し、人・モノ・資金など 相
応の体制が整い次第、策定活動を再開することと
致します。」

一方、構想策定の表裏一体となる江戸東京の歴史
文化観光まちづくりは進め、東京のまちづくりの
振興に寄与して参ります。

SDGs 持続可能な地球社会を目指す
世界の人々に提案しよう！

江戸東京歴史文化資源を活用した観光まちづくり

政庁、将軍のすまい、江戸の文化 本丸御殿復元構想の活用イメージ

別紙資料の「ご存じですか？①江戸城本丸御殿
②東御苑天守台座(石垣)」をご参照下さい。

司会：復元図は、1860 年(万延元年)新築され
た「万延度本丸御殿」について、甲良家文書で
は「万延度の江戸城本丸御殿」の作事に関わる資
料で現在まで残っている江戸時代の大工文書
の中の白眉といえるものがあります。

江戸城の第一人者である平井聖東京工業大学名
誉教授が、それに基づき 6 年の歳月をかけて研
究開発したプロジェクトの有り様やCGはNH
Kで放映され、その中で平井聖先生は「直ぐに復
元できます。」と明言されています。

山崎：復元と「活用」について伺いたいのですが？

小竹：復元は保存を第一義とすると考えます。
活用領域も研究者のご審議を期待しております
が、想像するには、玄間、大広間、松の廊下、白
書院、黒書院、能舞台、大名登城路、石垣、土
壁、城門(見附)等のいずれかが、俎上に上がる
のではないのでしょうか？

天守とは異なり、石垣も
無く、土地はフラット、
建物の高さもなく、相当
広いスペースですから、
活用の範囲は大きいと言
えるかもしれません。今
後、会員や市民の皆さま
の議論の場を検討してい
きたいと考えています。



(広重「名所江戸百景 上野清水堂不忍ノ池」(国立国会図書館所蔵))

川野：活用は大変に魅力があります、二条城のよ
うに新能、現代音楽と伝統芸能のコラボもおも
しろそうですね。世界の人々との文化交流するこ
とをイメージするとわくわくします。



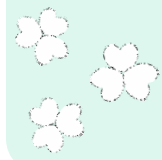
(北斎「富嶽三十六景 江戸日本橋」(国立国会図書館所蔵))

黒田：江戸城総構えという視点から見ると関東平
野の一角と周りの山々、特に富士山との一体感が、
借景という日本独特の文
化と繋がっていて、江戸
時代の人々が朝に夕に、
江戸城天守閣、富士山を
みることで、自然(神さ
ま)との一体感を醸し出
す装置としての江戸城総
構えの構造があったのだ
と思います。



(広重「富士三十六景 東都飛鳥山」(国立国会図書館))

村井：当時の大都市ロンドン、パリと比較しても
明らかに違うのは自然と一体化した都市構造の
仕組みが、人々の文化的水準の高さに繋がった
のでは無いでしょうか。文化財の本質が国内外に
再検証されそうな段階、即ち、江戸城総構えの完
成した後の世界遺産登録申請後に、改めて、江戸
城天守建築の研究をできればと、思うのですが、
如何でしょうか？



世界の人々と手をつなごう！2030 近未来の世界遺産を目指す 本丸御殿など江戸城全体整備構想の策定並びに

歴史文化資源を活かした観光まちづくり プラットフォームの設立に向けて

司会：プラットフォームの背景は、歴史や文化の基本構想や歴史まちづくり法なのです。歴史上価値の高い建造物等の文化財や祭り、年中行事、周辺の市街地の景観、自然保護等、歴史と伝統文化を反映した人々の生活の営みや活動も重要な課題として位置付けられています。地域の歴史的風景が、より洗練されていけば付加価値も高くなり経済効果も期待できることになるでしょう。

機関誌第4号「歴史まちづくり法」の参画を視野に入れて」参照。



(皇居 富士見櫓)

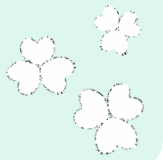
山崎：歴史文化まちづくりは、全体整備構想の策定活動と表裏一体となる活動として、位置付けていますが？

司会：全体整備構想をハードとしたら、歴史まちづくりは、ソフトとして位置付けています。ハード・ソフトの両面が活かしあい一体となることにより、歴史文化まちづくりが生み出す、豊かな世界に広がり繋がって行くのではないかと考えて、期待出来ると思います。

岩田：プラットフォームの基本構成は、江戸東京の歴史文化資源です。もう一つはそれらを守り活用する等の活動の主体です。従って、江戸東京の歴史文化を活かした観光まちづくりの振興に寄与したいと考えております。

岩田：今回の調査で600件以上の有形・無形の文化財等が収集されています。現在、新ホームページを作成中ですが、そこに公開することからスタートする予定です。
GISなどによる空間情報等デジタルの活用は、技術的なことよりも、十分な体制整備の検討が必要だと思います。

村井：プラットフォームは先ずは歴史文化資源のデータのリストアップが先決で良いと思います。



SDGs 持続可能な地球社会を目指す 世界の人々に提案しよう！ 江戸東京歴史文化資源を活用した観光まちづくり

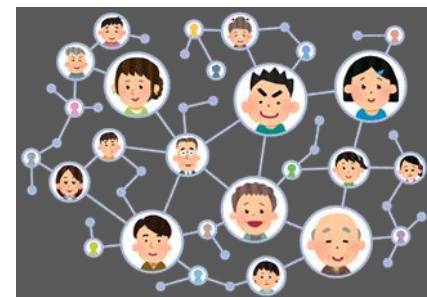
歴史文化資源を活かした観光まちづくり 歴史まちづくり&プラットフォーム 多様な人々 変わりゆく、交流・連携のあり方 リアルとデジタル

岩田：江戸城趾周辺では、江戸の地形を生かした遺構の保存、外濠の再生、神田川等の川下り、江戸の歴史・文化を学び楽しむサークルや文化財巡り、伝統文化や工芸で生活を営む専門家や主体など長年に多彩な活動が展開されています。地域の住民や大学、企業市民、自治体などにより産学官民の多様な連携による活動も進められています。



司会：コロナ禍により、生活も働き方も観光も変わる環境の下、これまで、都心や東京に集い、働き、生き、学ぶ方々以外にも東京を離れても遠くから老若男女問わず、夫々に合った方法でご参加戴くことも可能になります。従って、多様な人々による意見交換も活発になると思います。ジェンダー問題の動きやダイバーシティ宣言もあちこちで見られてきています。

川野：江戸東京の歴史文化資源を生かした観光まちづくりの中心を担う人は「地域」を良く知る方々が基本ではないでしょうか？



(デジタルネットワークのイメージ)

司会：大事な質問ですね。パネルディスカッションでも、ご提案を頂いたように地域以外の人達は地域の人しか知らない生活や歴史文化の活動を学びつつ地域の人に教えて戴くことになると思います。逆に、東京の各地域の個別の活動だと出来ないこととか、共通で困っていることとか、地域の動きを支援するとか、それらの想いを導き出してテーブルに上げていくような人や役割もまちづくりには大切な役割ではないかと思っています。今はガラス張りの時代です。権力のトップダウンの時代でもないですね。市民の力を基本とし、産学官民の交流や連携が重要です。



従って、ラウンドテーブルのような民主的な運営が必要条件となると思います。それぞれの想いをベースに話し合っていくことだと思えます。



(東京の町並み)

リアルな交流は大事ですが、リモートやテレワーク等デジタルの活用により、従来とは異なる多様さを認め合い、楽しく活動できるスタイルを一緒に模索していきたいですね。多くの方々にご参加して戴ければ幸いです。一人でも多くの方にお会いできることを楽しみにしています。(おわり)



2021年12月 近未来の世界遺産を目指し「VISION2032」 提言活動スタート



2021年12月 千代田区長 樋口高顕様を表敬訪問
左から齋藤副理事長 樋口千代田区長 小竹理事長 細内理事 内田専務理事

2021年12月好日

東京都知事	小池百合子 様	港区長 様
千代田区長	樋口 高顕 様	新宿区長 様
文京区長	榎 本 様	台東区長 様
墨田区長	山 口 様	中央区長 様
文化庁長官	田 中 様	江東区長 様
観光庁長官	梶 山 様	
文部科学省大臣	末松 信介 様	
国土交通省大臣	齋藤 鉄夫 様	
農林水産大臣	金子源二郎 様	
環境省大臣	山 口 様	
関係者・関係機関のみなさま		

(区長名は後日記載)

提 言 書 (概要版)

VISION 2032

近未来の世界遺産をめざし
—江戸城全体整備構想の策定並びに
江戸東京の歴史文化資源を活かした
持続可能な観光まちづくり推進—

2021年12月23日

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス

理事長 小竹 直隆

近未来の世界遺産をめざし 提言「VISION 2032」

江戸城全体整備構想の策定並びに江戸東京の歴史文化資源
を活かす一観光まちづくり推進

2021年12月1日、愈々、提言活動をスタート致しました。まずは、特別史跡江戸城跡が背景ある千代田区長 樋口高顕様を訪問致しました。
これまでの5年間、副区長様及び担当者の皆さまとご相談や意見交換を重ねさせて戴き今日に至っています。

本日は、提言書「VISION2032」をベースに有意義な意見交換を行うことができました。引き続き、東京都、文化庁等、関連自治体や行政、関係者・関係機関等に対して提言活動を進めて参ります。(会報誌12号より)
2022年7月、下記の8区に対し取組み状況についてのアンケートを取り纏めた。

提 言 先

東京都知事 千代田区長 文京区長 台東区長
新宿区長 中央区長 港区長 墨田区長 江東区長、文化庁
長官 観光庁長官 文部科学省大臣
国土交通省大臣 農林水産大臣 環境省大臣

等関係機関

2024年4月

遂に動き出す – 歴史文化まちづくりに必須の –

①世界遺産登録を目指す ②文化財保護法「大綱」の策定始まる

会報誌 第19号・本誌

近未来の世界遺産を目指す – 歴史文化の意義・水辺の美しさを軸にした都市再生の時代へ –

江戸東京が持つ有形・無形の文化財は日本一多い、しかし、宝の持ちぐされ・埋蔵されていることが問題と云われてきた

– 漸く、これらが世界に誇る歴史的建造物群として評価される時代への第一歩が東京都・区の計画に現れ始めた –

しかし、この画期的な一歩を、確かな歩みとしていくには、市民をはじめとした民間の力(願うことから行動へシフト)が鍵となる。

VISION 2032

普及・啓発、提言活動

2024年 愈々、動きだす！

江戸の歴史文化遺産の世界遺産登録！

2024年東京都未来戦略・長期計画

2024年都知事選公約(小池百合子候補)

2024年 漸く、遂に、始動！

都の文化財を俯瞰し取組・文化財保護法「大綱」の策定

明治初年以降、初めての歴史まちづくり(都市計画)

千代田区他8区*「文化財保存活用地域計画」

将来 巨大城郭 江戸城復元を目指す！

1636年外濠完成から400年目の2036年

江戸城と一体性ある石垣・城門等の復元を目指す

「史跡外堀保存管理計画」千代田・港・新宿区

さらなる普及・啓発・提言活動の拡充



江戸東京歴史文化回廊「江戸城下町」の歩き方イラストマップ

2024年10月 会報誌19号 遂に動き出した世界遺産

会報誌 第13号

SDGs持続可能な地球社会 & 近未来の世界遺産を目指す

「江戸城全体整備構想の策定」並びに「歴史文化資源を活かした観光まちづくり中長期計画」

VISION 2032

東京の文化芸術の振興及び観光振興に寄与し人々の健全で豊かな暮らしに貢献することを目的に提言活動を推進します

歴史文化・水辺の資源を軸にした都市再生

PLATFORM

プラットフォーム

江戸東京歴史文化ルネサンス

建造物・史跡・祭り・年中行事・etc.

順次・公開中(会報誌・WEB)!!

歴史文化資源や水辺&それらに携わる

人々の活動の姿

地域に住み・働き・訪れる人たちが

歴史文化資源を見える化し

人々はその豊かさを享受し

次世代に継承できる

活動を推進

PASSING・TOKYO

パッシング・東京！?

東京以外の地域に滞在する外国人旅行者が

近年大幅に増加・関連官庁資料より

京都・奈良・大阪へ

全国の各地域文化圏へ分散化

世界の首都は、歴史的文化的創造により、

熾烈な都市間競争の中にある。

世界都市ランキング3位の東京(森記念財団)しかし、

観光地の充実度や女性の社会進出の低さの弱点は、

相変わらず残ったままとなっている。

観光地域まちづくり法人等

設置を目指す

動き始めた!!

歴史まちづくりの中核的課題

歴史文化資源

大綱・「文化財保存活用地域計画」

(東京都・区 現在進行中)

史跡・水辺を活かす2036年を目指す

「史跡外堀保存管理計画」

(千代田・港・新宿3区)

江戸城跡との一体性を高めつつ

石垣・城門・見附等の復元

将来的には巨大城郭

江戸城復元を

目指す

VISION 2032 の課題

1. 歴史まちづくり中長期計画及び江戸城全体整備構想の策定
2. SDGs観光地域まちづくり法人等を目指す
3. プラットフォーム・歴史文化支援を活かした観光まちづくり
4. 観光資源・観光の価値の量、質の改革

「ヒト・モノ・資金が集まり次第策定活動を開始する」

「江戸東京歴史文化回廊調査研究報告書」

「2021年完成」

本丸御殿等「江戸城全体整備構想」の策定

江戸東京歴史文化ルネサンス調査研究委員会&調査研究委員会

PASSING される東京、遅れている東京

2024年
近未来の世界遺産を目指す
江戸東京歴史文化まちづくり展開構想

2024年10月 会報誌19号 遂に動きだした世界遺産

会報誌 第19号・特別企画



さらなる提言・コミュニケーション活動を拡充

私達は、2004年に市民団体「江戸城再建を目指す会」（後のNPO法人）を創立して以来、事業と運動の共創による一体的発展を目指し2017年一般財団法人を設立し、同年10月「江戸東京歴史文化ルネッサンス・ビジョン基本計画」を通して「天守再建は事実上不可能であるとの所見」を発表、世界的評価に資する「本丸御殿の復元検討を含む江戸城全体整備構想の策定」が必須であると「2017年構想の転回」をし、それ以降、調査研究及び普及啓発を進めて参りました。

2021年には「VISION3032」を策定—「近未来の世界遺産を目指し旧江戸城及び城下町の歴史文化遺産の文化価値を活かした観光まちづくり」—について、自治体や関係者及び関係機関に提言活動を推進しそれらを通して我が国の文化芸術の振興並びに地域社会の健全な発展に寄与することを目的として運動を進めて参ります。

皆さまには、どうか運動へのご参加及びご支援を戴きますようお願い申し上げます。

市民団体の創立から、これまでに至る歩み

2004年（平成16年）12月、政治・宗教・思想等の何のバックも持たない一市民団体として「江戸城再建を目指す会（後のNPO法人）」を創立しました。創立総会は、観光業界、都市計画、経営コンサルタント、会社役員等、市民60数名の参加により、理事長に小竹直隆を選任しました。

江戸城再建を目指す会 設立趣意書

「近年、世界各国、各都市は観光立国と魅力ある国づくりに向けて熾烈な競争を繰り広げているが、その中であって東京は国際都市として未だ確固たる地歩を築いているとは言い難い。その要因の一つは、日本の首都でありながら日本らしさを体現する傑出した歴史文化的遺産が存在しない点にある。かつての都、江戸は世界で最も魅力的なまちの一つと謳われていた。もし、ここに1657年の明暦の大火により失われた天守や本丸御殿を始め、江戸城の遺構が再建されれば、それは世界に伍して発展する文化観光、国際交流都市東京の形成に寄与するだけでなく、21世紀における日本再生の新しいシンボルにもなり得る、と確信する。」

このような観点から、私たちは再建を具体化するための各種の調査、研究を進めると共に、広く世論を喚起するための様々な活動を展開すべく、市民団体「江戸城再建を目指す会」を立ち上げる。

平成16年12月 江戸城再建を目指す会
理事長小竹直隆



（皇居二重橋を撮影）

これまでのあゆみとこれから

https://zaidan-edojo.or.jp/uploads/koremade_20240202.pdf

当財団のHPに掲載しておりますのでぜひご覧ください

小竹直隆さんを偲び捧ぐ ひと言 メッセージ

偲ぶ会にご参列いただいた皆さまからメッセージを頂戴しました



小竹直隆さんのご遺影の前に座ることになるとは、
思いもよりませんでした。

初めてお目にかかったのは、30数年前だと思います。業界の武士、さむらいと呼ばれておられました。私は役所で観光の仕事をしていて、仲良くさせていただきました。江戸城再建のプロジェクトに取り組みようとしてされた時でした。夢を持って全身全霊で取り組みようとしていました。小竹さんらしい人生を送ってこられた様に改めて思いました。

長い間、ご無沙汰しておりましたのに、お別れの会のご案内をいただき、感謝しております。JTBの皆さまの思い出も小竹さんの思い出と重なってきます。思い出はつきませんが、ご冥福をお祈り申し上げます。

元運輸省観光部長 前奈良県知事
荒井 正吾

小竹直隆さんのご遺影の前に座ることになるとは、
思いもよりませんでした。初めてお目にかかったのは、30数年前
だと思います。業界の武士、さむらいと呼ばれておられました。
私は役所で観光の仕事をしていて、仲良くさせていただきました。江戸城再建のプロジェクトに取り組みようとしてされた時
でした。夢を持って全身全霊で取り組みようとしていました。小竹さんらしい人生を送ってこられた様に改めて思いました。
長い間、ご無沙汰しておりましたのに、お別れの会のご案内をいただき、感謝しております。JTBの皆さまの思い出も小竹
さんの思い出と重なってきます。思い出はつきませんが、ご冥福をお祈り申し上げます。

その他多くの方から
ひとことメッセージをいただきました。
なお、個人情報保護のため、
ホームページへの掲載は
割愛させていただきます。

小竹さんに出会わなかったら、私の人生は？

立教大学名誉教授 溝尾 良隆

1964（昭和 39）年 4 月に、私は、株・日本交通公社外人旅行部西米課団体係に配属された。団体係は係長以下、小竹さん、男女各 1 名の社員がいた。この年 10 月に東京オリンピックが開催されるので、64 年入社の中から、16 名がオリンピック要員として外人旅行部に配属された。16 名のうち私を除いて、大学時代、英語はもとより、ドイツ語、スペイン語、フランス語、ロシア語、中国語を学んできた人たちだった。かれらは 1 月から、外人旅行部でアルバイトもしていた。私にもアルバイトの誘いはあったが「希望の職場ではないし、京都に長期に旅行する計画がある」といってお断りをした。あとで思えば、このときすでに外人旅行部への配属が決まっていたのだ。私たち 16 名は、他の同期生 2 クラスが 4 月から 3 か月の研修を受けるのに対し、3 月に 2 週間の研修をして、外人旅行部へ配属された。

私は、英文のタイプライターを打てないので、昼休み、仕事終了後、タイプの練習をした。会話もできないし、まして電話で英語をしゃべるのは無理、コレボン（英語文章）も満足に書けない。係長もあきれていた。

なぜはここに來たのか。入社試験に合格してから、挨拶に行った知合い紹介の常務が、「交通公社にきたら、君の希望する、出版部や国内旅行部に行ったらダメだ」といっていたので、そのひとが、外人旅行部へまわしたのだろう。

入社早々、小竹さんに「外人旅行部から出してほしい」と告げた。小竹さん「社員が異動するときには、惜しまれて行くのならよいが、能力が無くて、追い出されたとなると、それがずっとついて回る。」。「3 年間、出たいというな。3 年経ったら出してやるから」といわれた。これは守った。

小竹さんは 6 月に団体係の係長になった。私が英語はできないが、他をいかしてやろうと、ふつうの旅行コースを希望してくるツアーは、他の人に任せて、だれがやっても時間のかかる、例えば、バードウォッチャー、ライス（米）スタディー、ゴルフツアーなどは私に回した。冬になると、この頃旅行者は少なく、仕事は暇になるので、「米国西部の旅行業者と市場の分析をやろう」を二人で分析をした。

こんな私なのに、後樂園へ二人で野球を見に行ったり、呼ばれて小竹宅で徹夜のマージャンを 2 度ほどした。仕事が満足できない私をかわいがってくれた。

その後、小竹さんは組合の専従や他部門に異動した。私は 2 人の係長に仕えた。係の人数は増えなかったが、私が最古参になり、新係長には重宝にされた。入社 4 年目、観光地の調査研究をする財団法人日本交通公社があることを知った。ここに行くことに決め、外人旅行部には関係ない、社の通信教育で「経営数学」を受け表彰された。所長から「君はなぜこんな勉強しているのか」と聞かれ、財団へ行きたい旨を伝えた。財団へ調査報告書を頂きに行き、私が希望していることを伝えた。さらに日本観光協会の懸賞論文に応募し、入賞すれば異動できると、京浜急行や現地調査を始めた。

団体係へ来て 5 年が終わろうとする頃、入社時係長だった人が課長できた。「溝尾君、まだ外人旅行部を出たいのか」と確認をされた。5 年が経つ少し前の 2 月に「財団法人日本交通公社調査部」に異動した。みな、なぜ外人旅行部を出て、あんなおじいさんたちのところへ行くのかといわれた。調査部に 20 年、そのうち立教大学社会学部観光学科へ行くことになった。

立教大学へ行くときに、小竹さんが音頭を取って、私と仲の良かった人たちを集めて、お別れ会をしていただいた。

歴史に「たられば」は禁物といわれるが、入社した時に、小竹さんがいなかったら、私の人生は変わっていたことは間違いない。小竹さん、ありがとうございました。



12月5日以降に弔電等をいただいた方々です。厚く御礼申し上げます。（一部敬称略）

株式会社 JTB 代表取締役 社長 執行役員 山北栄二郎
株式会社 JTB 相談役 元 JTB 会長、元社長 田川博己
公益財団法人 東京観光財団 理事長 金子眞吾
東京六本木ロータリークラブ 2024-25 年度会長 小篠ゆま
東京六本木ロータリークラブ 株式会社海老正 取締役 宇佐見千嘉
東京六本木ロータリークラブ 株式会社葉山国際カンツリー倶楽部 代表取締役 片岡雅敦
株式会社文化財保存計画協会代表取締役 矢野和之
ドーバー洋酒貿易株式会社 代表取締役会長 和田泰治
山商株式会社 代表取締役 穂保康男
末宗直人 梶原徳二 稲垣和代 齋藤蒨 溝尾良隆 太刀川龍夫

通夜・葬儀は家族葬にて執り行われました。下記のお名前をご参列いただいた近親者の方々です。（家族・親族は除く）

厚く御礼申し上げます。（一部敬称略）

株式会社 JTB 取締役会長 高橋広行
NPO 法人セイエン 代表理事 関口宏聡
株式会社 カジワラキッチンサプライ 代表取締役 会長 梶原徳二
（公財）東京観光財団 総務部次長兼企画調査担当課長 南恵美子
元 TVCB 職員（元部下） 田中正之
東京西ロータリークラブ 株式会社千代田ビルマネジメント 代表取締役社長 小島篤
東京六本木ロータリークラブ 学校法人メイ・ウシヤマ学園 理事長 山中祥弘
東京六本木ロータリークラブ 森美術館 理事長 森佳子
東京六本木ロータリークラブ 株式会社グレイス 代表取締役社長 安井悦子
東京六本木ロータリークラブ 株式会社価値革新機構 代表取締役社長 安部義彦
東京六本木ロータリークラブ 株式会社ヒロコシノ 代表取締役副社長 小篠ゆま
東京六本木ロータリークラブ 株式会社天城 代表取締役 堀井健一

甲良好夫
宮本克彦
新井直美
丹羽洋之・裕子
武藤昌宏
金政初美

関根毅
田中半一
岩田洋和
川野恵可
小島朝子
福泉妙子

新屋孝太郎
新屋健勝
橋本義孝・富士子
土田義夫
宮崎信子

小川幸作
小山まさみ
岩橋なを江
片岡千鶴子
杉本邦彦

※万が一、弔電やご参列者様のお名前に漏れ等がございました際には、何卒ご容赦賜りますようお願い申し上げます。

謝 辞

一般財団法人江戸東京歴史文化ルネッサンス
理事長 浅田豊久

本日はご多用中にも関わりませず『小竹直隆さんを偲び捧ぐ会』に駆けつけて頂きご参拝賜りました事、誠に有難く、関係者一同、心より御礼を申し上げます。

小竹直隆さんの人生を振り返って見れば国際的な業務活動をビジネス化する役職を契機に人生ドラマの最終ページに相応しい『世のため人のために』と言う課題に積極的に取り組んで参りました。その一つは2004年、今から20年前市民運動として、自ら発議し行動化したテーマ『江戸城の再建』への取り組みです。国際派、小竹さんの視線で首都の都心には江戸城だという非常に合理的な判断であったとつくづく感じます。

2017年には本財団を設立し、翌年2018年には既に「世界遺産を目ざす江戸城再生」を標榜しておりました。昨年2024年、遂に東京都は「世界遺産登録を目指す事」を中長期計画化しました。

即ち、江戸城再生の為のブレイクスルー・難関を突破したことをこと小竹さんは大変に喜び、夢にみた本丸御殿の復元は愈々と、胸に抱きに旅立たれました。私達、後に続く後輩たちには常日頃、その精神、取り組み等々をご教示なさっておられました。

また、小竹さんが初代会長を務めた「東京六本木ロータリークラブ」への貢献です。本年1月、同クラブは『創立20周年祝賀会』を挙行し実に多くの参加者各位からその独創性、国際性に賛同者を得られたのでありました。後輩たちにはキッチリと『小竹路線』は引き継がれた、と理解しております。

当初、西ロータリー50周年の記念事業としての六本木ロータリー創立については、私も創立メンバーの一人としてサポートに入りました。ホテルオークラの当時社長会長であり佐藤さん（日銀で国際基礎学基金でワシントン）小竹さんがJTBのニューヨークに、大橋寛司さんが日本航空のニューヨークに、このお三方が米国赴任時の際に国際ロータリーを組み立てたと聞いております。

今日の開催にあたり、JTB、東京観光財団、六本木ロータリークラブ、市民団体及び関係者の皆様には大変にご尽力を戴き篤く御礼申し上げます。当財団としては、小竹さんの遺志を継ぎ、「世界遺産を目指す江戸城再生」の運動に邁進していくことを申し上げて御礼のご挨拶とさせて戴きます。ありがとうございました。

編集後記

桜の季節と会報作成が同じ時期になり、皆様をご覧になるのは気持ちの良い新緑の頃ではと思います。卒業と入学、新しい芽が出るというスタートの時期に会報をお届けできるのは小竹さんの思いと繋がっているような気がしました。 理事 川野 恵可

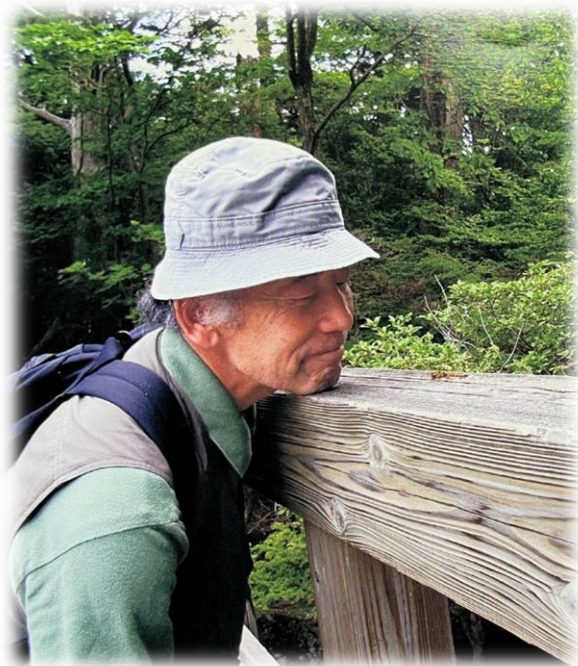
江戸城再建運動を20年ほど一緒にさせて頂きました。学生時代には勢いだけでお誘いし、就職してからは夜や休日に関われない時期もありました。また一方で、2年半にわたり、フルタイムで全力疾走させて頂いた時期もございました。改めて振り返りますと、その間にはさまざまな岐路があったことと思います。それでも、観光という視点から東京、日本、そして世界を見つめ、どのような時も江戸城再建を前進・進化させてこられたことに、深く敬意を表します。江戸城の再建そのものを見届けられなかったことを、残念に思われる方もいらっしゃるかもしれませんが。しかし私たちの心の中には、すでに江戸城再建の礎が築かれ始めていたことを、小竹先生の眼にはきっと映っていたのだと、私は信じております。ありがとうございました。

理事 村井 庸平

会報誌特別号の作成に微力ながら携わらせて頂きました。作業を進める中、昔の新聞の記事や雑誌のインタビューなどを通じて、小竹さんのご生涯の記録を多く拝見しました。いずれも初めて目にするものでしたが、日本の観光の発展、特に江戸城再建のために奮闘されてきた小竹さんの歩みを知り、ただ圧倒されるばかりでした。いつか必ず江戸城が再建されることを願うとともに、改めてご冥福をお祈りします。 事務局スタッフ 新屋 健勝

皆さまからの心のこもったお言葉を拝見する中で、小竹先生の遺されたものの大きさを改めて実感しています。先生、本当にありがとうございました。これからも財団江戸城の活動を、そして久江さんを見守ってください。

顧問 岩田 洋和



市民運動スタート以来二十数年多くのご縁があり出逢いがありました。

振返り、薫風に魅せられ雨雪交じる寒い夜も走り続けた日々があった、静かに時に熱く語り合う時が積み重ねられ、今は「日々是好日」と喜びも悲しみも走馬灯のように過ります。

関係者みなさまのご尽力により2024年江戸城再生の最大の難関である「世界遺産登録を目指す」ことが決まり大きな一歩を踏み出す事ができました。このことにより、江戸城本丸御殿の復元も江戸文化の再生も確かな手ごたえを胸に抱き小竹直隆さんは、市民運動を標榜以来、最初で最期の気高い歓びに包まれ、私達を見守る星になるために、天高く駆けて逝かれました。

残された私達はこれからも「空想の翼で駆け、現実の山野を歩き小竹直隆さんの遺志を継承して参ります。」

これまでの長い間お力添えを戴きましたみなさまに心より篤く御礼を申し上げます。どうか、これからも一人でも多くこの運動にご参加戴きますよう、亦、ご支援を賜わりますよう御礼とお願い申し上げ編集後記とさせていただきます。

専務理事 内田 久江



高野山真言宗 総本山金剛峯寺 東京別院

